

第十四回 衆議院議事速記録第十三號

明治三十三年一月二十二日(月曜日)午後一時十分開議

議事日程 第十二號 明治三十三年一月二十二日

午後一時開議

第一 產牛馬組合法案(政府提出) 第二讀會ノ續(委員長報告)

第二 飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 府縣都市町村其ノ他ノ公共團體ノ所有地免租ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 刑法中改正法律案(安藤龜太郎外四名提出) 第一讀會

第五 酒造税法中改正法律案(大塚常次郎外五名提出) 第一讀會

第六 裁判所設立及管轄區域變更ニ關スル法律案(西原清東外三名提出) 第一讀會

第七 田地價特別修正法律案(西村淳藏外四名提出) 第一讀會

第八 國事犯罪者家祿賞典祿處分法案(關信之三名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第九 重要輸出品同業組合法中改正法律案(恆隆慶外三名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十 第一期鐵道速成ノ建議案(降旗元太郎外十四名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十一 官幣大社氷川神社ニ對スル國庫支出建議案(加藤政之助外七名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 (特別報告第一號)永小作權ニ關スル請願 (委員長報告)

○議長(片岡健吉君) 福岡縣第一區ノ補選選舉ニ當選セラレマシタル所ノ青柳四郎君ガ御出席ニナリマシテ、二百五十六番ニ著席ヲセラレマシタカラ諸君ニ御紹介ヲ致シマス (青柳四郎君起立ス) (拍手起ル)

○議長(片岡健吉君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス (書記朗讀)

決算委員補選選舉ニ於テ大久保鐵作君當選セラレタリ

委員長及理事左ノ通當選セラレタリ

鐵道國有ニ關スル建議案 委員長 野田卯太郎君 理事 藤澤幾之輔君

重要輸出品同業組合法中改正法律案

委員長 永井嘉六郎君 理事 大矢四郎兵衛君

郵便爲替法案外一件 委員長 宮崎榮治君 理事 宮原幸三郎君

山陰高等農林學校設置建議案 委員長 齋藤卯八君 理事 佐藤伊助君

明治三十一年度豫備金支出ノ件外三件 委員長 安川繁成君 理事 中辰之助君

賣藥規則中改正法律案 委員長 小田爲綱君 理事 津野常君

福岡縣第七區補選選舉ノ結果トシテ青柳四郎君當選セラレタル旨小松原内務次官ヨリ通牒アリタリ

花井卓藏君外一名提出刑事訴訟法改正ニ關スル質問ニ對スル清浦司法大臣ノ答辯書ヲ受領セリ

衆議院議員花井卓藏君外一名ヨリ刑事訴訟法改正ニ關スル質問ニ對シ司法大臣ヨリ答辯書提出ニ付及御回付候也

明治三十三年一月二十日 衆議院議長片岡健吉殿 內閣總理大臣侯爵山縣有朋

衆議院議員花井卓藏君外一名提出刑事訴訟法改正ニ關スル質問ノ件ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治三十三年一月十八日 衆議院議長片岡健吉殿 司法大臣清浦奎吾

衆議院議員花井卓藏君外一名提出刑事訴訟法改正ニ關スル質問ニ對スル答辯書

政府ハ刑事訴訟法ヲ改正スル必要ヲ認ムルノミナラス刑法亦之ヲ改正スル必要ヲ認ムルニ因リ先ツ刑法改正案ノ調査ヲ完了スルヲ以テ順序ト爲シ主トシテ之ニ從事シタレトモ刑事訴訟法改正案ノ調査亦之ヲ停止シタルニ非ス共改正案ハ成ルヘク速カニ調査ヲ完了セムコトヲ期スレトモ之ヲ本期ノ議會ニ提出スルト否トハ未定ナリ

右及答辯候也

明治三十三年一月十八日 司法大臣清浦奎吾

貴族院ハ明治三十三年度歳入歳出總豫算案(本院ノ修正シタル)明治三十三年度各特別會計歳入歳出豫算案豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒アリタリ

大石正己君ヨリ外交ニ關シ工藤行幹君安藤龜太郎君根本正君ヨリ教育基金特別法ニ關シ安部井磐根君鈴木重遠君神樂知常君工藤行幹君藤澤幾之輔君安川繁成君ヨリ閣臣職責ニ關スル質問書ヲ提出セラレタリ

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

自家用醬油稅法案

提出者 西谷 金藏君
右成規ニ據リ提出候也
明治三十三年一月二十二日

提出者 大石 正己

贊成者 尾崎 行雄
外七十二名

左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス

外交ニ關スル質問主意書

一、英、露、獨、佛、伊、白ノ諸國ハ清國ノ運輸交通ヲ利便ニシテ文明ニ誘導シ富源ヲ開發シ且均勢ヲ維持センカ爲メ數年前ヨリ爭フテ鐵道敷設權ヲ清國ニ得メテ政府ハ清國ニ於ケル鐵道敷設權ヲ得シカ爲メ如何ナル交渉協議ヲ爲シタル乎將タ又其必要ヲ認メサル乎
一、清國礦物ニ富ミ無盡藏ノ稱アルモ其民文明ノ智識ニ乏シク徒ラニ土中ニ委棄サレテ文明ニ資セズ歐米諸國ハ之ヲ遺囑トシテ夙ニ鑛山採掘ヲ權得タルモ尠ナカラス清國ノ鑛山採掘ハ彼我ニ莫大ノ利益アルハ辯ヲ俟タス政府ハ清國ノ未採掘鑛山調査ニ如何ナル方法手續ヲ盡シタル乎又鑛山採掘權ヲ得シカ爲メ清國政府ト協議ヲナシタル乎若シ爲シタルトセハ其顛末如何

一、明治二十九年九月二十七日清國杭州ニ於テ調印シ翌三十年五月二十五日外務省告示第六號ヲ以テ公布シタル杭州日本居留地取極書第四條ニ「居留地一切ノ橋梁、溝渠、埠頭、道路ハ清國地方官ニ於テ完固ニ建設スヘシ」ト規定シタリシカ二十年五月十三日調印ノ杭州日本居留地追加取極書ヲ以テ右ノ第四條ヲ削除シテ更ニ第二條ニ「居留地内總テノ道路橋梁溝渠埠頭及警察ノ權ハ日本領事官ノ管理トナス其道路橋梁溝渠埠頭ハ日本領事官ヨリ法ヲ設ケ建築修理シ清國地方官ハ之ニ關涉スルコトナシ但界内設計道路ノ外若シ彼此人民水利交通ノ關係ニ因リ別ニ道路ヲ開設セントスルトキハ清國地方官ト協議ノ上取扱フヘシ」ト取極メタリ蘇州漢口福州厦門沙市等日本居留地取極書ニモ亦同一様ノ規定アリ政府ハ右等專管居留地中確定後既ニ殆ント三年ヲ經過シタルモノアルニ今日マテ未タ何等ノ設備ヲ爲サル理由如何

明治二十九年十月十九日調印同年十月十日公布ノ日清議定書第一條ニ「新開通商市港場ニ日本專有ノ居留地ヲ置クコトヲ妥定シ道路管轄及地方警察ノ權ハ日本領事ニ專屬スルモノトス」ト規定セリ其後蘇州杭州沙市ノ新開場ニ日本專管居留地ヲ設定シモナカラ獨リ重慶ノミニ未タ專管居留地ヲ取極メサルハ其必要ヲ認メサルニ由ルカ將タ又清國政府ト協議中ニ屬スルカ若シ協議中ナリトセハ何年何月何日ヨリ交渉ヲ開始シタル乎
明治二十七年八月二日朝鮮京城ニ於テ調印シタル暫定合同條款ニ「將來朝鮮國ノ自由獨立ヲ鞏固ニシ且彼此ノ貿易ヲ獎勵シ以テ益々兩國ノ親密ヲ圖ランカ爲メ茲ニ合同條款ヲ暫定ス」ト述ヘテ其第二項ニ「內政改革ノ節目中京釜兩地及京仁兩地間ニ建設スヘキ鐵道一事ハ朝鮮政府ニ於テ其財政未タ裕ナラサルヲ慮カリ日本政府若クハ日本ノ或會社ニ訂約シ時機ヲ見計ヒ起工センコトヲ願フト雖モ目下委曲情節アリテ其運ヒニ及ヒ難シ依テ其法ヲ按出シ可成丈速ニ訂約起工ノ運ヒニ至ルヲ要ス」ト規定シ翌二十八年京釜鐵道會社ハ京釜間鐵道ヲ全成セントシテ外務省ニ出願

セリ其後駐韓公使ノ力ニ依リ三十一年九月八日京釜鐵道會社ハ契約ノ日ヨリ三箇年以内ニ工事ニ著手セサル場合ニハ契約ヲ無効トストノ條件ヲ付シテ朝鮮政府ニ右敷設權ヲ得タリシカ近頃該鐵道會社ハ利子ノ補給ヲ出願セリト聞ク政府ハ利子ノ補給ヲ要セスト認ムル乎將タ又契約ノ日ヨリ三箇年ノ時日空過シテ敷設權ヲ失フモ朝鮮ノ自由獨立彼此貿易ノ發達兩國ノ親和ニ何等不利益ヲ來スコトナシト信スル乎
米人コイルブラン及ヒ露獨ノ兩國ハ京城元山間鐵道敷設權ヲ得ントシテ競爭シタルシカ朝鮮政府ハ其敷設權ヲ國內鐵道用達會社ニ許可セリト聞ク當時政府ハ如何ナル措置ヲ爲セシ乎又其權利ヲ我國ニ收ムルノ必要ヲ認メサリシ乎將タ又其必要ヲ認メタルモ袖手傍觀シタリシ乎
一、昨年六月佛人某カ京城義州間鐵道敷設權ヲ他ニ轉賣セントシテ果サス遂ニ國內鐵道會社ノ權利ニ歸セリト聞ク當時政府ハ拱手シテ其成行ヲ傍觀シタル乎若シ然ラズトセハ如何ナル方法手段ヲ講シタル乎
一、三十二年度豫算案ニ「露國オデッサハ近來彼我通商上ノ關係益々頻繁ヲ加ヘ最早名譽領事ニ之カ保護ノ任ヲ委ネ置クヘキ時機ニアラサルヲ以テ之ヲ正式領事ニ改メ」云々ト稱シテ其費用ヲ各相當科目ニ豫算シテ要求シタルシカ第十三議會ハ右費用ヲ否決セリ然ルニ本邦トオデッサト通商ハ爾後益々増進シ加之同港ヲ起點トスル露國東洋義勇艦隊ハ昨年ヨリ航海數ヲ倍シテ絶ヘス東洋ニ送兵セリ通商上政治上兩ツナカラ正式領事館設置ノ必要少シモ減退セサルニ關セス三十三年度豫算ニ右新設費用ヲ要求セサル理由如何

教育基金特別法ニ關スル質問

右成規ニ據リ提出候也
明治三十三年一月二十二日
提出者 工藤 行幹
贊成者 山田 喜之助
外三十一名
安藤 龜太郎 根本 正

明治三十二年三月二十日法律第八十號ヲ以テ教育基金特別法ヲ發布セリ而シテ其第三條第三條ニ依レバ償金特別會計資金中一千万圓ノ利子金ハ普通教育費ニ使用ス其使用ニ關スル細則ハ命令ヲ以テ定ムルトアリ此法律文ニ依レバ該金使用ノ細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得ルモ第八十號法律發布以後ニ生スル利子ハ普通教育費外ニ一切使用スルヲ得サルヤ明カナリ然ルニ同年勅令第四百三十五號ヲ以テ教育基金令ヲ發セリ而シテ其第十二條ニ本令施行以前ニ生スル利子ニ相當スル金額ノ使用方法ハ文部大臣ノ定ムル處ニ依ル云々ト規定セリ然レハ該勅令ノ第十二條ハ法律第八十號ノ精神ニ矛盾シ越權ノ處置ナルカ如シ政府ハ如何ニ之ヲ解釋スルヤ若シ又狂ケテ文部大臣ニ於テ之ヲ定ムルモノトセハ明治三十二年四月ヨリ同三十三年四月一日マテ殆ント一箇年間ニ生スル利子金ハ何等ノ費途ニ使用スル意見ナリヤ

閣臣職責ニ關スル質問書
右成規ニ據リ提出候也
明治三十三年一月二十二日

提出者 安部井 磐根 鈴木 重遠 神輿 知常
工藤 行幹 藤澤 幾之輔 安川 繁成
贊成者 本間 直 外百九名

閣臣職責ニ關スル質問主意書
昨年三月會計検査院ニ關スル事項安川繁成ノ質問ニ對シ政府ノ答辯スル處
益々疑アリ

一 政府ノ答辯ハ 天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有スル會計
検査院ノ決議ニ付テハ國務大臣ハ何等ノ處分ヲ爲ス能ハス隨テ是等
ノ決議ニ關シ國務大臣ハ是非ノ意見ヲ表示スルノ限リニ在ラスト云フ
ニアリ抑々會計検査院ハ政府ノ會計ヲ監督スル爲メ獨立ノ資格ヲ有セ
サルヘカラス故ニ其組織及職權ハ裁判官ト同ク法律ヲ以テ之ヲ定メ行
政命令ノ區域外ニ在ルニ過キサルノミ豈大政以外其門ヲニスルモノ
ナランヤ然ルモ猶國務大臣ハ之ニ對スル責ナシト云フ歟

二 政府ノ答辯ハ會計検査院部長安川繁成検査官吉田市十郎外二名ノ退官
ハ會計検査官會議ニ於テ明治二十九年法律第九十一號ニ依リ決定セシ
モノナレハ國務大臣ハ其當否ニ關シ是非ノ意見ヲ表示スヘキ限リニア
ラスト云フニアリ

三 凡立憲ノ目的ハ主權ノ使用ヲシテ正當ナル軌道ニ由ラシムルニ在ルハ
固ヨリ論ナシ然ルニ其退官會議ノ如キハ名ヲ法律ニ藉リシノ形式上
ヨリ見ルモ事實上ヨリ見ルモ會議其會議ニアラス況ンヤ正理空シク不
義ノ勢力ニ壓シ去ラレテ大政ノ瑕瑾ト爲ルニ於テヤ然ルモ猶國務大
臣ハ其名ノ法律ニアルヲ以テ立憲ノ目的ニ反スルモノト認メサル歟
憲法第五十五條ノ二項ニ凡テ法律勅令其他國務ニ關スル詔勅ハ國務大
臣ノ副署ヲ要ストアリ是則大臣擔當ノ權ト責任ノ義トヲ表明スル者故
ニ朝廷ノ失政ハ署名ノ大臣其責ヲ免レサルコト固ヨリ論ナク假令署名
セサルモ議ニ預レハ其責ヲ引クヲ以テ至當トスヘキニアラスヤ然リ而
シテ署名大臣本分ノ力ヲ法律組織ニ係ル會計検査院ノ非行ニ致サス却
テ責ヲ大權ニ歸ス可ナラン歟

理由
明治三十年三月八日會計検査院長渡邊昇カ臨時軍事費決算検査ニ關シ該院
法第十條及第十五條ヲ無視シ同院總會議ヲ經シテ其検査成績ノ上奏ヲ爲
シタルヤ同院部長安川繁成検査官吉田市十郎外二名ハ法律ノ擁護ヲ以テ自
ラ任シ其非行ニ抗議シタルモ却テ之ヲ不當トシ同年四月十日同院總會議ニ
於テ名ヲ法律ノ解釋ニ藉リ其實院長私擅上奏ノ非行ヲ庇護スル議決ヲ爲シ
其實ヲ遁避シタルノミナラス而カモ同月十二日ノ官報ヲ以テ之ヲ公表シ當時
輿論ノ攻撃ヲ鎮壓セント試ミタリ抑該決議ノ不法不當ニシテ 天皇ノ御大
權ヲ蔑如シ帝國議會ノ權能ヲ侵犯スルモノタルハ茲ニ嗚呼スルヲ要セス之
ニ關シ衆議院議員安川繁成ハ去年三月六日第一項ノ質問ヲ提出セルモ政府
ノ答辯頗ル曖昧ニシテ要領ヲ知得スル能ハス單ニ 天皇ニ直隸シ國務大臣
ニ對シ特立ノ地位ヲ有スル會計検査院ノ決議ニ付テハ國務大臣ハ何等ノ處
分ヲ爲ス能ハス隨テ其決議ニ關シ是非ノ意見ヲ表示スヘキ限リニアラスト

云フニ過キサルヲ以テ若シ夫レ今後ニ於テモ該院カ如何ニ御大權ヲ蔑如シ
法律ヲ無視スル不法不當ノ決議ヲ爲スモ亦何等ノ處分ヲ加フル能ハスト云
フニ至ラン是レ明ニ憲法ニ規定セル

天皇補弼ノ責任ヲ無視セルモノニシテ立憲治下ニ於ケル國務大臣ノ言議ト
認ムヘキモノニ非ス政府ノ意見ニシテ果シテ如クンハ更ニ進ンテ内閣ノ責
任ヲ問ハサル可カラズ是レ第一項ニ對シ再質問ヲ爲ス所以ナリ

明治三十年五月五日會計検査院部長安川繁成以下三名ニ對シ明治二十九年
法律第九十一號ヲ適用シ退官ノ決議セルハ當時該院長カ不法上奏ノ非行ヲ
庇護スルノ決議ニ對シ各職責ヲ恪遵シ法律ノ擁護ヲ以テ自ラ任シ抗議相下
ラサリシヲ以テ渡邊昇ハ院內朋黨ヲ比周シ安川等ヲ誣ユルニ狂人ヲ以テシ
身心健全職務ニ勤勉ナルニ拘ハラズ密カニ形式缺欠ノ會議ヲ開キ自黨ノ手
ヲ藉リ遂ニ安川以下三名ヲ誣陷セルモノニシテ其議案ノ如キ極メテ之ヲ祕
密ニ付シ事後ニ至リ再三之カ明示ヲ追ルト雖モ遂ニ應セス竊ニ聞ク該決議
タルヤ安川等ヲ以テ單ニ身心衰弱ニ依リ職務ヲ執ル能ハスト云フニ止マラ
ス他ニ懲戒ノ意旨二三ノ條項アリシト果シテ然ラハ其決定ノ不當タルヤ
益々甚シト云ハサルヘカラス而シテ該決定ノ不當タルハ單ニ社會公衆ノ之
ヲ認メタルノミナラズ政府亦之ヲ認メタルハ關宗喜ヲ退官後幾何ナラスシ
テ之ヲ臺灣總督府事務官ニ任用セルヲ見テモ知ルヘキナリ曩ニハ身心衰弱
ニヨリ職務ヲ執ル能ハサルモノト認ムルノ決定ニ依リ之カ退官ヲ執奏シテ
渡邊昇等カ非行ヲ助成シ未タ幾何ナラスシテ職務ニ堪ユルモノトシ之ヲ任
用ス何ゾ其矛盾ノ甚タシキヤ而シテ去年三月六日衆議院議員安川繁成ノ質
問ニ對シテハ單ニ法律ニ依ルノ決定ナルヲ以テ政府ハ其決定ノ當否ニ關シ
是非ノ意見ヲ表示スヘキモノニ非スト答辯セリ抑々内閣總理大臣ナルモノ
ハ官吏ノ進退ニ關シ上奏ヲ受クニ當テ假令法律ニ依ルノ決定ナリト雖モ
宜シク精査考覈シ其決定ニシテ不法不當ノ事實存在スルコトヲ認メタルト
キハ御不裁可ヲ請フテ直ニ相當ノ處分ヲ爲スヘキモノタルハ固ヨリ言ヲ待
タサル處ナリ然ルニ當時ノ内閣總理大臣ハ退官決定ノ上奏ヲ受クルニ當リ
其決定ノ不當ナルヲ認メタルニ拘ハラズ直ニ執奏ノ手續ヲ爲シタルモノニ
シテ其職責ヲ盡サハリシモノタルハ明白ノ事實ナリ然ルニ質問ヲ受クルニ
及ンテハ單ニ前記ノ如キ答辯ヲ爲スニ過キス是レ明ニ責ヲ 天皇ニ歸シ奉
ルモノニシテ憲法ニ規定セル 天皇補弼ノ責任ニ任セサルモノト言ハサル可
カラズ是レ第二項ニ對シ再質問ヲ爲ス所以ナリ

會計検査院ノ紊亂既ニ前ニ云フカ如ク憲法ノ成文今此ニ引カ如シ嗚呼此時
ニ當リ署名ノ大臣強大ナル行政ノ權柄ヲ握リ躬ヲ以テ匡救矯正ノ任ニ當ル
アラハ假令該院長暴橫彼カ如シト雖モ亦奈何トモ可ラサリシナリ思ヘ大
臣ニシテ署名ノ責任ニ任スルノ義ナカラシニハ行政ノ權力容易ニ法律以外ニ
濫越シ其結果終ニ法律ハ徒ラニ空文ニ歸シ終ランノミ誠ニ今來ノ爲メ寒心
ノ至ニ堪ヘス是第三ノ質問ヲ爲ス所以ナリ

○議長(片岡健吉君) 諸君ニ御諮リ致スコトガアリマス、河北勸七君ハ病
氣ノタメニ議員職ニ關スル法律案ノ特別委員ヲ辭任セラレマシタガ、許シ
マシテ御異議ハアリマセスカ
(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス、此委員ハ議長ノ指名ニ成立ッテ居リマスカラ、議長ハ佐伯誠一郎君ヲ其補闕ニ指名致シマス、松尾又雄君ハ病氣ノタメ本日ヨリ向フ二週間ノ請暇ヲ申出ラレマシタ、許シマシテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス、江島久米雄君ハ母死亡ノタメ本日ヨリ向フ二週間ノ請暇ヲ申出ラレマシタ、是モ許シマシテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス、江島久米雄君ハ選舉法改正法律案外二件ノ特別委員ヲ辭任シタキ旨ヲ申出ラレマシタガ、是モ許シマシテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス、此委員モ議長ノ指名ニナッテ居リマスカラ、議長ハ小栗貞雄君ヲ指名致シマス、委員長重野謙次郎君カラ鐵道敷設法中改正法律案ノ委員會ヲ此時間ニ開キタイト云フ申出ガアリマスガ、是モ許シマシテ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス、是ヨリ會議ヲ開キマス

○大石正己君(二百七十六番) 議長……

○議長(片岡健吉君) 大石正己君

○宮崎榮治君(百三十一番) 私モ郵便爲替法案及電信法案ノ委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ御許ヲ願ヒマス

○議長(片岡健吉君) 宮崎榮治君モ郵便爲替法案ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデゴザイマスガ、是モ許シテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス

持ッテ居ル政治家ガ、其局ニアラズンバ人ノ爲スコトハ氣ニ入ラヌハ、無論デアルケレドモ、此國家ノ事タルヤ我手ニ此責任ヲ持ッテ居ラヌカラ、ドウデモ宜イト云フ譯ニハ往カナイ、十分デナイデモ成ルタケ之ヲ助ケテ我國家ノ進運ヲ圖ルト云フコトニハ爲シタイモノデアリマス、ソレデ總令其局ニアラザルモ、多少主義ガ違ヒ、政略ガ違ッテモ、成リタケ國家ノ進運上ニハ一步モ進メテ往キタイト云フノ考デアル、ソレデ私ノ質問ノ主眼ハ固ヨリ政略上違フ所ハ致方ガアリマセヌケレドモ、成ルタケ此局ニ當ラレテ居ル人ヲ助ケテ、ドウカ今日ノ場合十分ニ手腕ヲ振ッテ貫ヒタイト云フ希望カラ質問ヲ致ス、中ニハ固ヨリ吾々國民ガ大ニ當局者ガ何ヲ爲シ居ルデアラウカト云フノ實際疑ヲ懷イテ居ル點ノ如キハ、又是レ質問ノ效力ニ依ッテ、大ニ世間ノ迷ヲ疑團ヲ散ラスト云フ效能モアリマセウ、ソレデ此質問書ヲ出スト云フモノモ、成ルベクハ外交上ノコトヲ質問ヲ避ケタイノデアリマスガ、然ルニ此吾々國民ノ代表者タル代議士トシテハ、今日ノ場合已ムコトヲ得ヌ、質問セザルヲ得ヌ場合ニ立至ッテ居ル、是ハ此國會ノ代議士ト云フモノガ、隨分此開設以來我代議士諸君ノ御勉勵ニ依ッテ餘程進デ來マシタケレドモ、又一面ヨリ見レバ此代議士ノ職責上トシテハ、甚ダ遺憾ナ點ガアル、固ヨリ此法律規則等ノ區々タル章句ノ間ニ拘泥シテ、固ヨリ是ハ法律規則ノ區々タル間ニモ盡力センナラヌケレドモ、重ニ國民ガ代議士ニ待設クルモノガ、主トシテ何デアアル、此高等ノ知識ヲ働カシテ、國家ノ大計上ニ十分著眼シテ貫ヒタイト云フノガ、國民ノ代議士ニ待設クル最モ主點デアアル、然レバ今日ノ場合我日本國ニ於テ如何ナル問題ガ一番大切デアアルカト云フコトヲ少シク考ヘテ見タナラバ、此今日ノ場合色々内政上大切ナ問題モアリマスケレドモ、凡ソ此外交ヨリ大切ナ問題ハ、差迫ッテアリハシナイ此外交ノ點ニ於テモ如何ニモ私ガ唯コ、デ想像ヲシテ云フノデアナイ、我國民ト云フモノガ、近來如何ニモ意氣地ガナイ、如何ニモ不振退縮、是デハ往ケタイト云フコトハ、幾ド我國此今日ノ輿論デアアル、ソレデ此外交上ノ問題ニ對シテ、此國民ノ遺憾ニ思ウテ居ル點ト云フモノハ、ドウシテモ是ハ十分當局者ニ反省シテ貫ハニヤナラヌ點ガ種々アル、固ヨリ事實ヲ擧ゲテ御話ヲ段々致シマス、ソレデ此吾々ガ此内閣ヲ組織スル初ニ當ッテハ、餘程此内閣デハ十分ノ經綸モアリ、十分ナ手腕ヲ振ハル、デアラウト思ウヌ、ト申スモノハ此内閣ノ起ルトキニ當ッテハ、固ヨリ此今日ノ内閣諸公ハ自ラ政黨ノ勢力ヲ持ッテ居ル御方デハナイ、自ラ特ムカハナクシテ、自由黨ノ重ニ勢力ト云フモノヲ借用シテ作ラレタルモノデアアル、自由黨ナルモノハ固ヨリ種々名士ニ富ンデ居ラレル、種々ナ經綸ヲ抱カレタ豪傑ガ澤山アッテ、固ヨリ自ラ内閣ヲ組織シテヤルト云フ抱負ノアルト云フ人ガ澤山充滿シテ居ル、澤山充滿シテ居ルニモ拘ラズ此勢力ヲ貸シテ内閣ヲ作ラセテサウシテ國家ノタメニ働カセヤウト云フ此自由黨ハ、一面カラ見レバ誠ニ是ハ雅量ノアル大度量ノ御方デアアル、其又勢力ヲ借用シテ内閣ヲ組織スルト云フ内閣諸公ハ、如何ニモ大經綸ヲ持ッテ大手腕ヲ振ハル、御方デアラウト待設ケタノデアアル、何トナレバ己ノ勢力ガナクテモ尙本人ノ勢力ヲ藉リデマデヤッテ見ルト云フコトニ於テ、此内閣ト云フモノハ非常ニ國家ニ對スル經綸ヲ持ッテ居ラレ、十分内政外政ニ成績ヲ擧ゲタル、ト待設ケタノデアアルガ、既ニ一年有餘ヲ經タ今日ニ至ッテモ、他ノ力ヲ借

用シテマデヤラシナラヌト云フ内閣諸公ガ、一向ニ其成績ヲ御見セナサラヌ、吾々モ沈黙シテ待設ケテ居ルヲ其望ト云フモノハ、全ク失望ノ結果ニ終ルヤウニナラヌ、果シテ此自由黨ノ御方々モ遺憾ニ思ハル、デアラウ、折角力ヲ貸シテマデヤラシテ見ダガ、一向成績ガ舉ラヌト云フコトハ、如何ニモ残念ニ感ゼラル、デアラウト御察申スノデアアル、殊ニ此外交ニ於テ然リ、ソレデ此國家ノ代表者トシテ、又國民トシテ、今日如何ニモ質問ノ矢ヲ放ッテ一應其御意見モ伺フテ見シナラヌ、又吾々モ迷モ散ジシケレバナラヌト云フ場合ニ立至ツタモノハ、何デアアル、即チ外交ノ怠慢、外交上ノ怠慢、モウ一ツ云ヘバ即チ外交上ノ所謂退縮、外交略ノ退縮、之ヲ攪テ其事實ニ附イテ申シマスレバ、詰リ言換ヘテ見レバ、此朝鮮ニ對シテ、支那ニ對スル、我政治上ノ勢力ト云フモノハ、衰微シテ居ル、衰微シツ、アル、尙ホ今日大ニ此我國家ニ對シテハ、危險ヲ感ズルト言ハザルヲ得ヌ、又此貿易、我國ノ貿易ノ利益線ト云フモノガ、今日既ニ退縮シテ居ル、尙ホ且將來モ退縮スルノ甚シキ危險ガアルト云フコトヲ申スノデアアル、是ハ唯攪テ申シタ所デアアルガ、儲之ヲ事實ニ就イテ我當局者ガ外交ノ怠慢不振不能無爲ト云フモノヨリ來ル所ノ我國ノ受ケル所ノ損害ト云フモノノ之ヲ一面ニハ此大勢上カラ私ハ申上ゲヤウト思フ、又一面ニハ事實上ノ細目ニ涉ツテ其事實ヲ舉ゲテ申上ゲル積デアアル、先ヅ此凡ソ國家ノ勢力、政治上ノ權力トカ、或ハ貿易ノ利益線トカ、斯ウ云フモノハチヨット申スト無形ナモノデ、甚ダ採リ所ガナイ、是ガ衰ヘルトカ、盛ニナツタトカ云フ場合ト云フモノハ、有形物、物ノ寸尺ヲ取ルヤウニ、又物ノ輕重ヲ計ルヤウナ譯ニハイカナイケレドモ、詰リ大勢上カラ論ジ碎イテ、形勢境遇ト云フモノヲ申上ゲシケレバ、衰ヘテ居ルカ盛ニナツテ居ルカチヨット試ニ攪ミ惡クイ話デアアル、ケレドモ確ニ日本ガ唯今朝鮮支那ニ對スル勢力ト云フモノハ衰ヘツ、アル、是ハ先ヅ大勢上ヨリ申シマスレバ、此日本ガ唯無爲デアアル間ニ、外國モ皆無爲デアレバ宜シイ、決シテ日本ガ無爲デ居ルカラ外國モ遠慮シテ無爲デ居ルト云フ譯デアナイ、著々外國ハ手ヲ伸バシ勢力ヲ張リ權力ヲ増シテ來テ居ル間ニ、日本ガ無爲デアルト云フコトハ、日本ノ國ガ愈々比較的ニ退縮シテ、愈々危險ヲ感ジシケレバナラヌ、ソレデ第一朝鮮ニ附キ、又支那ニ附キ、區々別々ニ申上ゲマスルガ、一體此露西亞ガ今日ハ西伯利亞ノ鐵道ガ貫通スル最早期モ接近シテ居ル、又滿洲鐵道ト云フモノモ落成スルデアラウ、又此旅順口大連灣ニ於ケル兵備軍港ト云フモノハ、十分是ガ完成ヲ告グル日遠キニアラズ、此日ニハドウデアアル、此北清ノ地、支那ノ北方ノ部分ト朝鮮半島ト云フモノハ、如何ナル運命ニ遭遇スルカト云フコトヲ考ヘレバ、大勢上分ル、無論此準備ガ完成シタ曉ニハ、此朝鮮半島支那ノ北部ト云フモノハ、此閉門主義ノ或ル強大國ノ管轄ニ歸スルト云フコトハ、論ヲ俟タヌ、是ハ詰リ今日ノ外交當局者ノ過デアルト云フコトハ、私ハ言ハヌ、ソラ外國ガ兵力ヲ張り、段々鐵道ヲ架ケ、駭々トシテ其勢力ヲ延シテ來ルト云フコトハ、是ハ外國ノ仕事デアアル、然ルニ其外國ガ勢力ヲ張り、權力ヲ延スト云フコトキニ、ソレニ對等スルダケノ勢力ヲ延シ、此準備ヲスル必要ガアル、ソレヲ怠レバ當局者ノ責ヲ免レヌ、又此政治家ト云フ者ガ、必ズ直接ニ過ヲシ、直接ニ惡ルイコトサヘシナケレバ、政治家ノ責ガ塞ガレカト云フト、決シテサウデナイ、政治家ハ國家ノ水先案内デ、國家ノ大勢ヲ觀察シテ國ノ利害、將來

竝ニ現在ニ於ケル利害得失ヲ計較シテ、此大計ヲ誤ラセヌト云フ責任ガアル、故ニ此政治家ノ責任ハ、必ズ進デ惡ルイコトヲシナクテモ、此境遇ニ應ジ、新規ナル出來事、必要ニ應ジタル施設ヲ怠ルトキニハ、即チ是ハ大責任ヲ失フコトデアアル、即チ此前ニ申上ゲタ如クニ、我強大鄰國ガ段々ト準備ヲシテ來レバ、之ニ對抗スルノ準備ヲセシナラヌト云フコトハ、是ハ明ナ道理デアアル、又我日本ガ兵ヲ出シテ、明治二十七八年ニ此朝鮮ノタメニ戰マデシタノハ、如何ナルモノデアアル、即チ此朝鮮ト云フモノハ、我貿易利益線ト云フモノヲ保護シ、又我政治上ノ勢力ヲ保ツ上ニ於テ、且ツ我邦ノ危險ヲ避ケルタメ、我將來國家ノ危險ヲ防禦スル上ニ於テ、必ズ朝鮮ヲ獨立サセテ置カナケレバナラヌカラ、始ツタノデアアル、然ラバ此對韓ノ政策ト云フモノハ、方針ハ暗々裏ニ極ツタノデアアル、事實上ニ於テ、誰ガ極メタト云フコトハナイガ、事實上ニ於テ斯ウセニヤナラヌト云フコトハ極ツテ居ル、然ラバ此對韓ノ方針ト云フモノヲ此段々ニ内閣ガ變リ政府ガ變ジテモ、其方針ト云フモノハ、ドウシテモ是ハ續ケテ遂行シテ往カケレバナラヌ、此方針ヲ遂行シテ往カネバ、別ニソレナラ經綸ガアルカ、此日清戰爭ヲシタト云フトキノ精神ト、其方針ヲ遂行スルト云フ上ニ於テハ、益々此朝鮮半島ニ於ケル施設ハ怠ラレナイ、即チ彼ニ對抗スルノ準備ト云フモノハ、著々シナケレバナラヌ、デ斯ウ申スト、露骨ニ申スト、或ハ「アグレーブル」外交上ニソレハ憚リガアルトカ何トカ云フヤウナ、下ラナイ夢ヲ見テ、日本ノ人が動モスレバ外交上ノ秘密デアナイコトマデモ秘密ニシ、恐ル、ニ足ラヌコトヲ恐ル、ノデ、決シテ秘密デアナイ恐ル、ニ足ラヌ、何トナレバ此國ト云フモノガ國交上ニ於テハ、固ヨリ御前ノ國ヲ攻メニ行クト云フ人ハナイ、固ヨリ心持ノ宜イヤウナ御交際ヲシテ居ルガ、各々其國ニ於テ兵備ヲ擴張スルハ何デアアル、詰リ事アレバ戰フ、又我國ノ利益ヲ保護スルタメニ必要デアルト云フノ此名目ノ下ニ各々準備ヲシテ居ル、此對韓對清ノ方針ヨリシテ、遂ニ此我利益線ヲ保護スルタメニハ、此朝鮮或ハ支那ニ於ケルドウシテモ鐵道或ハ此嶺山ノ採掘ト云フヤウナモノハ、是ハドウシテモ我國ノ進デ得ラル、ダケノ準備ハシテ置カナケレバナラヌ、即チ此明治三十一年ニ京釜鐵道ト云フモノヲ日本ノ政府ノ力ニ依ツテ、周旋ニ依ツテ之ヲ我國ノ手ニ收メタト云フモノハ、如何ナル趣意デアッタカ、其明文ニモアル通、朝鮮ノ自由獨立ヲ鞏固ニシ、ドウカ貿易ヲ獎勵スルタメニ、是ハ必要デアルト云フノ趣意ニ依ツテ、此京釜鐵道ト云フモノハ、我國ノ手ニ收メテ居ル、此例ヘバ（京釜鐵道ノ看板ヲ撤シテ質問ニ掛ルベシ）ト呼フ者アリ）此京釜鐵道ト云フモノヲ我國ニ收メタトキノ趣意ト云フモノハ、ドウシテモ是ハ今日ニ於テ其趣意ヲ抛棄シテシマツタト云フコトヲ内閣ガ言ハレルカ、此趣意ト云フモノヲ何處マデモ之ヲ遂行セシナラヌト言ハル、カ、是ハ内閣諸公ノ今日ノ御決心ヲ承リタメ、固ヨリ是ハ私設會社ニ條約シテ渡シタモノデアルト言ハル、モ、詰リ此京釜鐵道ト云フモノハ、一種ノ不問ニ政略上ノ意味モ包蓄シテ居ル、又一般ノ國家ノ貿易利益線ヲ擴張スルト云フ大趣意カラ起キテ居ルモノデアレバ、無論是ハ著々之ヲ落成ニ至ラシムル所ノ處斷ヲシナケレバナラヌ、然ルニ此京釜鐵道ト云フモノヲ日本ノ手ニ收メタルハ、明治三十一年ニシテ、今日如何ナルモノガ變功ヲ見テ居ルカ、デ此對韓ノ我政策ト云フモノヲ變ジタト云フナラバ、變ジ

去ルト云フハ、如何ナル譯デアアルカ、是ハ既ニ既約ノ權デアアル、又我國ノ隨分體面ニモ關スル、固ヨリ我國ノ利益ヲ保護スル上ニ於テハ、最も必要デアアル、之ヲ若シ日本ガ此京釜鐵道ノ竣功ヲ十分ニ圖ラズシテ、或ハ是ハ期限モアルモノデ、其期限ガ來リ、其條約ガ無効ニ歸スルト云フコトニナレバ、固ヨリ氣ヲ附ケテ行ツテ居ル國ガ幾ラモアル、是ガ若シ我國以外ノ強國ノ手ニ京釜鐵道ガ落チテ、釜山マデツツ京城カラ鐵道ヲ敷イテ、是ニ據ルト云フモノガアツタトキニハ、日本ノ是ニ對スル覺悟ハ如何デアアルカ、容易ナラヌ問題ヲ等閑ニ附シテ居ルト云フコトハ、即チ外交上最も我國ノ怠慢ト言ハザルヲ得ヌ、唯是ガ普通割合ノ一個人ノ資格ヲ以テ一個人ノ間ニ此鐵道ノ權ヲ取ツタト云フ譯デアナイ、又モウツ進言ヘバ、此京釜鐵道ニ關セズ、朝鮮ニ於ケル大切ナ鐵道線路ハ、延バセルダケノ手ヲ延シテ置クハ、ドウシテモ必要デ、隨分間接ニ承レバ、此京釜鐵道京元鐵道ノ如キモ、昨年アタリ十分ニ我國カラ手ヲ延セバ其好機會ハ向フカラ投シテ來タト云フコトヲ承ツテ居ル、然ルニ何等ノ交渉ヲシタト云フヲ承ラナイ、最モアルナラバ其交渉ヲシタコトヲ答辯ニ預リタイ、固ヨリ此鐵道ノ採掘權杯ト云フコトハ、或ル一種ノ俗論ガ世間ニ流行シテ居ル、サウ云フモノヲ取ツタ所ガ仕方ガナイ、ヤラヌケレバ仕方ガナイヂヤナイカト云フヤウナ、直チニ此算盤上ノ議論ヲスル人ガ世ノ中ニアリマスケレドモ、是ハ大ナル間違デアアル、此凡ソ國家ノ權力ヲ維持シ、其位地勢力ト云フモノヲ擴張スル上ニ於テハ、直チニ利益ニナラヌコトデモ、直チニ著手シナイコトデモ、是ハドウシテモ權力ノ平均上鈞合上取ツテ置クト云フ必要ガアリ、又國ノ勢力ニモ威カニモ關スル此鐵道トカ或ハ鐵道採掘ノ權トカ云フヤウナモノハ、今日列國ガ取り居ルモノヲ見テモ、直チニ著手スルモノモアレバ、著手ハセヌガ、取ツテ置クト云フモノモアル、如何ニモ其通り、詰リ權力ノ平衡上、勢力維持ノ對抗上、此ノ如キモノハ一種ノ眼ヲ以テ見ル必要ガアル、直グニ茲ニ權力ヲ取ツタカラ、ソレヲ利益線ニ用ヒテ直グニ鐵道モ架ケル、直チニ鐵道採掘スルト云フコトハナクテモ、取ルベキモノハ取ツテ置カナケレバナラヌ、是ヲセヌケレバ平衡ヲ失ツテ來ル、又權力ヲ取ルト云フコトガアツテ、段々實業上ノ人ガ後カラ進デ行クト云フコトガ起ツテ來ル權力ガナケレバ、ヤラウト云フ人ガアツテモヤレナイ譯デアアル、所ガ朝鮮アタリニハ鐵道ニモ有望ナモノガ、調ベテ見レバ澤山アル筈デアアル、ケレドモ是ニ就イテ交渉モ盡力モシタト云フコトハ承ラヌ、斯ノ如ク既ニ朝鮮ニ於ケル我國ノ勢力我國ノ利益線ト云フモノヲ拋棄シテシマツテアル、ソコデモウツ是カラ支那ノ方ヘ目ヲ向ケテ見ルト、又其通り、抑、此支那ニ於テ日本ガ福州不割讓ト云フコトハ、其權ヲ請求シタ時代ト今日ノ時代ト云フモノハ、如何ナル相違ヲ爲シテ居ルコト云フコトヲ見ルノニ、福州不割讓ヲヤルト云フコトキニハ、列國爭フテ勢力ノ範圍ヲ擴張シタモノデアアル、勢力ノ範圍ヲ爭フト云フ時代ハ即チ此不割讓ト云フ時代デアアツタ、時勢ハ段々轉輾シテ段々進デ來テ無形ノ勢力ハ物ヲ爭フト云フトキカラ一步進デ實力實權ヲ爭フト云フ今日ハ形勢ニ立至ツテ居ル、ソレデ詰リ鐵道ノ敷設權鐵道ノ採掘權ト云フモノハ、利益線ニ這入ツテ居ル列國ガ——然ラバ我國ガ不割讓ヲ列國ト共ニ要求シタト云フ精神、其政略ト云フモノヲ遂行スルナラバ、段々モウ

利益線ニ這入ツタケレドモ、共ニ列國ト同ジキ位置ヲ持ツテ居ラナケレバナラヌモノデアアル、所ガ此列國ハ進ンデ利益實權ト云フモノヲ爭フ時代ニ、我國ハ昔ノ不割讓ノ間ノ夢ヲ見テ居ルト云フコトハ、是ハ既ニ外交ノ怠慢デアアル(ヒヤノ)斯ノ如ク申セバ、或ハ支那ヲ懷柔スルニハ、ドウモアノ國ノ歡心ヲ買ハンナラヌト云フ愚論ガアルカ知ラヌ、然ルニ凡ソ未開國ト云フモノニ接シテハ、先進國ガ之ヲ誘導シ警戒スル上ニ於テ、一々其國ノ機嫌ヲ窺フトカ、其國ノ極曖昧ナル所ノ感情ヲ迎ヘルト云フヤウナコトヲシテ居ル例ガナイ、成ル程一方ニハ隨分利益ヲ與ヘ、保護ヲ與ヘ、成ル程可愛ガルコトハシナケレバナラヌガ、一面ニハ又我國ノ威嚴ヲ保チ、十分權力ノ權衡ヲ得ルト云フ上ニ於テ我國ガ進ンデヤツテ置カヌケレバ、遂ニ支那ヲ十分ニ輔佐スルト云フ仕事モ技術モ出來ナクナツテシマフノデアアル、列國ガ今日皆我國ノ如クニ不割讓ノ程度ニ安ジテ、手ヲ出サヌ時代ナラバ宜シイケレドモ、彼ガ進デ要地要港ヲ占メ、而シテ支那ノ死命ヲ制シテ居ル時代ニ、我權力ノ平衡ヲ取ツテ居ラヌト云フコトハ、他日事アルトキニ助ケルニモ助ケラヌ、決シテ手足ガ出ナイコトニナル、必ズ權力ノ平衡ヲ保ツ上ニ於テ斯ノ如キコトハ、十分必要ナコトデアアル、又斯ク申セバ或ハ無暗ニ人ノ國ニ手ヲ著ケルコトガ出來ヌト云フ考ガアル、固ヨリ左様デアアル、然ルニ我國ニ於テモ廈門事件ノ如キ、隨分彼ノ暴動ヲ被リ、損害ヲ受ケタコトモアル、幾ラモ其方針ヲ極メテ其傾向ニ働カンナラヌト云フ考ガアル以上ハ、幾ラモ適當ナ名義ノ下ニ無理ナコトヲセズシテ、其間ニ働ケル手段方法ハ、幾ラモアツタノデアアル、デ固ヨリ此手心ハ當局者ノ其時ノ場合ニ依ルコトデ、強チ申スコトデアナイケレドモ、然ルニ早ヤ一例ガ斯ウ云フ支那ノ如キ未開ノ有様デアアツテ、隨分政府ノ爲ス所、人民ノ向フ所ガ、チダハシテ往クト云フ場合ニハ、支那ノ國ノタメニモ我十分ナ勢力ヲ占メ、地歩ヲ占メ、取締上働キマスコトハ十分權力ヲ張出シテ置クコトヲシナケレバ、口實ヲ得ルコトモ出來ヌ、先日ノ如キ暴動ガ再發シテ、之ヲ防グコトガ出來ヌ、既ニ今日ノ新聞ニモ廈門ニ無暗ニ亂暴狼籍ニ遭ウテ居ル者ガアル、強チ決シテ機會ガナイデモ、名義ガナイデモ宜イ、又我敢テ口實ヲ作ツテ云々スルノデアナイ、隨分今日列國ノ有様ヲ見レバ、殊更ニ口實ヲ作り、又隨分無理ニ強奪ヲスルガ如キ舉動ナキニアラザレドモ、我國ノ如キ決シテサウ云フコトヲシヤウト申スノデアナイ、ソレ故ニ支那ニ於ケル勢力ヲ十分ナル權衡ヲ取ツテ往クト云フ點ニ注意スレバ宜イ、今日ノ如キ有様デアハ到底往カナイ、所ガ此支那ニ於テハ福州不割讓ヲ請求シテ以來、何ノ外交上ノ勢力ヲ得テ居ラヌノミナラヌ、却テ比較的イ勢力ガ減ゼラレ、我利益線ガ段々減縮サレル感ガアル、所ガ願ミテ支那ノ我國ニ對スル政治上兵事上ニ於テ大切ナモノハ、先ヅ措指イテ、單ニ貿易ノ利益上カラ見テ、凡ソ支那程大切ナモノハナイ、是ハ隨分世間誰デモ知ツテ居ル話デアリマスケレドモ、事實統計ニ就イテ見テ、如何ニモ驚クベク日清貿易ト云フモノハ進歩シテ居ルコトハ、是ハ政府ガ助ケテ進歩シタト云ヘヌ、自然の二日清貿易ガ非常ナ進歩シテ居ル、若シ我當局者ニシテ當然ノ職責ヲ盡シタナラバ、此幾倍モ進ダニ相違ナイト思フ感ガアル、即チ明治十四年五年頃ニ當ツテ、日清貿易ノ有様ヲ見レバ、一千三百万圓若クハ一千四百万圓ノ間ニ居ツテ、三十一年ノ統計ハ即チ六千万——殆ド六千

万ヲ示シテ居ル、今日ハマダ是ヨリ進シテ居ルニ相違ナイ、之ヲ見テモ此支那ト日本ノ貿易ノ如ク進歩ヲシテ増加スルモノハナイ、先ヅ五割弱四割強ト云フ有様アル、所ガ日本ガ此歐米各國ト日本トノ間ノ貿易ノ有様ガ斯ノ如ク進ダモノガ何處ニアル、決シテアリハシナイ、是カラ此勢テ往クナラバ、若クハ五六年或ハ七八年ノ後ノ支那ト日本トノ貿易ハ世界中ヲ相手ニスル貿易ト殆ド匹敵スルマデニナルカ知ラヌ、此勢テ云ハバ、三億万四億万ト云フ金ニ、必ズ近イ間ニ日清貿易ハ進シテ來ル、然ラバ日本ノ將來ノ經濟上ノ消長、日本ノ國運ノ盛衰ト云フモノハ即チ支那ノ市場ト云フコトニナル、然ラバ無論對清ノ方針ト云フモノハ、開明主義ヨリ外仕方ガナイ、ドウシテモ支那ノ市場ト云フモノヲ日本ニ十分ニ開カシテ、サウシテ此支那市場ヲ日本ガドレダケマデ之ヲ支那市場ニ我貿易線ヲ擴張シテ往クカト云フコトデアル、然ラバ貿易ノ一點カラ見テ、支那ノ方ハ凡ソ我國ニ大切ナ關係ヲ持ッテ居ルモノナラバ、其支那ニ對スル施設上當局者ガ何ヲ爲シテ居ル、ドレ程盡力ヲシテ居ルカト云フコトヲ伺フテ見ルニ、決シテ此當局者ハ國民ニ満足ヲ與ヘルダケノ仕事ハシテ居ナイ、シテ居ナイ所デナイ、スルコトモ怠ラシク居ルコト云フ形跡ガアル、即チ此居留地ノ專管居留地ノ如キドウデアアル、專管居留地ノ如キハ、此間モ外務大臣ハ本院ノ演說ニモナリ、貴族院デモ答辯ヲ言ハレタト云フコトヲ仄ニ承ルガ、如何ニ政府ガ働イテモ、人民ガ意氣地ガナクシテ仕方ガナイ、草莽ヲ仕方ガナイ、取ッテヤツテモ仕方ガナイト云フ語氣ヲ往々發セラレテ居ルヤウニ見受ケル、然ルニ是ハ大ナル間違デアアル、專管居留地ト云フモノガ、十分ニ利用ノ出來ルベキモノヲ利用シナイト云フ過チハ、何レニアルカト云ハバ、當局者ニアル、ソレハ何デアアル即チ專管居留地ト云フモノヲ我國ニ得ルモノトキノ條約文ヲ見テモ明ニアル、ソレハ道路橋梁溝渠ト云フモノハ、領事館ニ於テ之ヲ敷設スルコト云フコトガアル、必ズ領事館ガシナクテモ我輩ハ宜カラウト思フ、然ルニ此道路橋梁溝渠ト云フヤウナモノハ、公共ノコトデアアツテ、人民ガ一己デスルコトハ出來ナイ、是ダケノコトハ政府ガスルノハ當然ノコトデ、其時ノ條約文ニ書イテアル通、政府ガシナイカラデアアル、金ガ要ル、固ヨリ金ハ要ル、要ル金ナラバ使フガ宜シイ、ソレ程ノ大金ガ要ルカト云ハバ、サウデアナイ、五六十万圓カ其位ノモノダ、其金ヲ政府ガ出スコトモ出來ヌト云フハ、何タルコトデアアル、日耳曼ノ如キハ組合ヲ立テテ組合ニ金ヲ出サセテ、其居留地ノ成效シタ上、其居留地ニ附イテノ貸借買賣等ノ權利組合ニ許シテ遣ラシテ居ル、ソレデモ宜シイ、免ニ角專管居留地ヲ取ツタ以上ハ、是ヲ利用シナケレバナラヌ所ノ責任ハ、當局者ニアル、是ヲ怠ラシテ居ルノダ、人民ガ往カヌノハ往カヌ、人民ガ意氣地ガナイカラ、草莽茫トシテ居ル杯トハ、何事デアアル、實ニ己ノ職務ヲ怠慢ニ附シテ居ルノデアアル、斯ノ如キ一例ヲ見テモ日清貿易ノ日清ノ間ノ貿易ヲ保護スルニ、政府ノ冷淡ナルコトガ分ル、モウ一ツ進デ申シテ見レバ、條約文ニモ重慶アリモナカク、寒イ處デ、蘇杭州杯ヨリモ盛デアアルトカ、盛ニナラウトカ云フ見込ガアル、是等ニ於テモ專管居留地モ取ラヌ、領事館モ置カヌ、ドウシテモ日本ニ於テハ先覺者ノ政府ノ誘導者タルベキモノガ手ヲ進メ地ヲ拓イテ人民ヲ勤メルコトガ、今日ノ日本ノ進歩ノ度合デアアル、之ヲシナイデ、歐羅巴各國ノ如クニ人民ガ獨リテ進ミ、獨リテ往ケルモノト思ウテ居ルノハ、問

違デアアル、ソレダケノ手數ヲシナイデ、人民ガ往カヌレバ往カヌ、人民ガ惡ルイ杯ト思フノハ、是レ實ニ大ナル當局者ノ怠慢デアアル、又領事館ノ云云、專管居留地ノ云々ニ止ラナイ、領事ナル者ガ一向働カナイ、或ル部分ニ於テハ働イテ居ルカ知ラヌガ、領事ガ商業製造工業者等ノ實業ニ對スル深切ガ足ラナイ、十分ノ職責ヲ盡シテ居ラナイ、今日ノ場合一例ヲ舉ゲテ見テモ、或ハ領事館ヲ各所ニ配ッテアル、其領事ト云フモノハ任所地ニ於テ何ヲシテ居ルカ、商業ヲ調ベ、模倣ヲ調ベ、其報告ヲ速ニシ、又我國ノ國產若クハ製造品ノ捌口ニ對シテ販路ヲ開クニ附イテ、又開カレルヤウナ針路ヲ執リ、又其報道ヲ敏速ニヤツテ居ルカト云ハバ、サウデアナイ、即チ外務省デ拵ヘル所ノ商業黨纂トカ何トカ云フ領事ノ報告杯ヲ御覽ナサイ、大概三箇月四箇月ノ後ニ現レテ居ル前ノコトヲ書イテアルノダ、前ノコトヲ書イテ居ルト云フノハ、即チ實業上ノコトヲ心頭ニ懸ケズ、發育ヲ圖ルト云フコトニ冷淡ナルダメニ此報告ノ出來タ時分ニハ、其相場附デモ、注文デモ、疾クノ昔ノ事ガ書イテアル、何ノ役ニ立ツカ、三四箇月経テバ日本ノ物品デモ相場ガ違ッテ居ル、斯ノ如キ無益ノコトヲシテ居ルノデアアル、不深切ノコトヲシテ居ルノデアアルガ、十分ノ發育シ、之ヲ誘導スルコトハ、勉テ居ラナイ、然ラバ外務省ハ金ガ一向ニナイノデアアルカト云ハバ、サウデアナイ、海外貿易擴張費杯ハ六万圓デアアツタノヲ十萬圓ヲ増シテ居ル、又外務省デモ機密費ヲ増シテ居ル、外務省ノ此金ハ「ジプロマチツク」ノ方ニ使フコトモアリマセウケレドモ、日本ノ製造貿易ト云フモノヲ獎勵スル方ノコトハ、寧ロ十分ニ使ッテ宜シイ、又此貿易ハ申上ゲナケレバナリマセウガ、其仕事ニ於テハ決シテ以前ト變ッテハ居ラナイ、ドウ云フコトヲシテ居ルカ、見受ケルコトガ出來ナイ、斯ノ如ク一々事實ヲ舉ゲテ往ケバ、實ニ爲スベキコトニシテ爲サレテ居ラヌコトハ枚舉ニ違アラヌ、又一體外交上——モウ少シ高等ノ外交上ノコトニ移ッテ申セバ、全體支那ノ事ヲ處分スルニ、日本ノ政府ハ單獨デア出來ルト思ッテ居ルカ否カト云フコトヲ問ウテ見タイ、最早支那ト云フモノニ對スル「ハイホリチツク」ニ涉ツタコト、高等ノ外交上ニ涉ツタコトハ、單獨ニ支那ノ處分スルコトハ出來ナクナツテ居ル、孰モ我國ト利害ヲ均ウシ、其利害ヲ同ジウスル強國ト組合ツテ、サウシテ暗キ裏ノ間ニ其心持ヲ以テシナケレバ、支那ノ事ト云フモノハ出來ナクナツテ居ル、然ラバ支那ノ運命ハ誰ガ制スルカト云ハバ、歐羅巴列強ガ制スル、就中支那ノ死命ヲ掌ル所ノモノハ英露ノ如キモノデアアル、英露ノ今日ノ形勢ト云フモノハ、實ニ機敏ノ外交上ノ運動ヲ爲シ、殊ニ今英吉利ノ「トランスバール」ノ如キハ面倒ナ關係ヲ生シテ居ル、其面倒ノ關係ヲ生シテ居ルガタメニ歐羅巴列強ノ全部ヲ動搖サセテ、イツ何時ドシナ事ガ起ルカ知ラヌ場合ニナツテ居ル、免ニ角支那ノ死命ヲ制スル強國ト云フノハ、英吉利露西亞ト云フ此強國ト云フモノガ、今日ノ其働キノ原動力トナツテ居ルノデアアル、原動力ノ中心ハ何處ニ在ルカト云フト、倫敦ト聖彼得堡ニ在ル、此原動力ト爲ル所ニ注視シテ、肝要ノ事ヲ爲スノ決心ガナケレバナラヌ、或ハ此露西亞英吉利等ノ政治家當局者ト交渉シテ、又機會ニ投ズベキノ仕事ヲシナケレバナラヌ、又各々十分ニ願ミテ準備シナケレバナラヌコトモ著々起ッテ居ル、所デ今ノ外務省ノシザマハ如何デアアル、其大切ノ英京倫敦及聖彼得堡ノ公使ヲ數箇月空ケ

テ、留守ニシテ居ルコト云フハ、何事デアル、外務省ト云フモノハ唯儀式的ノ
 交際ヲ爲スト云フ役所デハナイ、ソレハ昔ノコトダ、儀式的交際ヲ今日爲サ
 ノノハナイガ、ソレヲ以テ決シテ能トスル譯デハナイ、今日ハ外務省ハ平
 和ノ參謀部デアル、平和ノ參謀部トモ云フベキ外務省、何處ノ外務省デモ機敏
 ノ働ヲ爲シ、最モ迅速ニ確實ニ列國ノ報道ヲ得ルコトガ必要デアル、其形勢
 ガ分ラズシテハ政策ノ施シヤウハナイノデアル、最モ世界ノ動力トナル本源
 ノ英吉利ノ倫敦、露西亞ノ聖彼得堡ニ公使ヲ置キ、代表者ヲ置イテ、而モ其
 全國ニ注意スルト云フコトデナケレバナライ、然ルニ此處ノ公使ヲ明ツ放
 シニシテ、少モ痛痒ヲ感ゼザルガ如ク、阿弗利加ノ戰爭ノ如キハ、遠クノ火
 事ノ如ク感シテ居ルノハ、實ニ何事デアルカ、是ハ形ノ上デ現レタコトデア
 ル、然ルニ斯ク形ノ上ニ怠慢ガ現レルトキハ、其裏面ニハ餘程怠ツテ居ルモ
 ノト見ナケレバナラヌ、僅ニ形ノ上デハアルガ、大ナル著シキ證據ガ擧ツテ居
 ル、ソレハ成ル程當局者ハ辯明スルトキニハ、儀式的ニソレハ斯ウ云フ訓令ヲ
 スル積ガアツタトカ、斯ウ云フ公用ガアツタトカ云フガ、皆口實デアル、ナ
 カナカ實際ハサウ云フモノデナイ、仄ニ開ク所ニ依レバ、兩國ノ公使ガ最早
 任地ニ歸ラント云フコトハ、公然ノ秘密ニナツテ居ツテ、サウシテ未ダ後任
 者モ出來ズ、ソレナリ明放シニシテアルト云フハ、即チ外交上ニ於テ働キガ
 ナイト云フ證據デアル、公使館ニ公使ガ居ナケレバ、代理公使ガ居ルナラ
 支ナイト云フコトヲ申スガ、是ハ儀式的ノ挨拶デ、人間ノ智識ノ程度實際ノ
 度合ニ依ツテ聞ケナイコトヲ聞ケル、又結ビ惡クイ條約モ結ブコトガ出
 來、交渉ノ付カヌコトモ附クト云フコトハ、當リ前デアル、若シ代理公使
 デ足リルナラ、全權公使ヲヤル必要ハナイ、昔デアル、斯ノ如キコトハ外務
 省ノ怠慢外交上ノ不深切テ我利益線ヲ保護スル點ニ活動セヌ證據デアル、
 而シテ其一點カラ申セバ、既ニ暹羅ノ如キモ、今ハ公使ガ向フニ往ツテ居
 ルガ、日本ニ歸ツテ來テ一年程ニナルモ、内實ノ種々ノ下ラナイ一身上ノ
 事情ヲ以テ外務省ノ間ニ交渉シテ居ルコトデ、一體ガ政治上ノ事カラ起ツタ
 コトデハナイ、是ハ只證據ノ一部分デアリマスカ、マア斯ノ如キ外交上ノ違
 方デ、甚ダ是ハ國家ニ對シテ不深切ノ仕方デ、我國ノ外國ニ對スル利益線デ
 保護スルニ足ヌ處置デアル、外務ノコトハ一朝一夕ニ立派ナ效果ヲ見ルコト
 ハ望マレナイ、内閣ガ變ツテ二三箇月ノ間ニ外交上ノ成績ヲ見セナケレバ
 ラヌト云ヘバ、誰モ出來ヌニ相違ナイ、然ルニ凡ソ一箇年有餘ノ經驗ヲシタ
 ナレバ、大抵分リサウナモノデアル、然ルニ之ガ目ニ見エズ、失策怠慢ノア
 ルト云フハ、即チ當局者ノ不能ト云ハザルヲ得ヌ、斯ノ如キ不能ハ當リ當局
 者ヲ責ムルノミデハナイ、サウ云フ人間ニ依ツテ國家ノ責任ヲ負ハシテ居ル
 國民ガ甚ダ迷惑デアル、是ハ支那ニ對スル方ノコトデアリマスカ、更ニ貿易
 ニ對スル當局者ノ何ヲ見ルニ、進取ト云フコトヲ内閣ノ作ラレ、トキノ宣言
 ニアツタカドウカハ知リマセヌガ、進取ノ政策ヲ採ツテ進メテ往ク、貿易其
 他ノ擴張ヲ計ル、斯ウ云フコトハ何時デモ云フコトデアアルガ、事實ハドウデ
 アルカ、事實ハマルデ反對デ、退縮デアアル、退縮トカ進取トカ云フコトハ、隨
 分漢トシタ話デアアルガ、又事實ヲ押ヘテ是ヲ徵スルコトガ出來ル、例ヘバ露西
 亞ノオデッサニ領事館ヲ置ク議ガ盛デアツタガ、今年ノ豫算ニハ引込マシテ
 居ル、其時ノ理由ハ日露ノ貿易ノ特ニオデッサノ如キハ貿易ガ年々ニ増加シ

テ、非常ニ必要ヲ認ムル理由ヲ以テ議會ニ豫算ヲ請求シテ居ツテ、今年ハツ
 レヲ引込マシテ居ル、昨年ハ大變必要デアアルガ、今年ハ必要デアナイト云フハ、
 抑々何ニ依ツテ斷ズルカ、吾々トノ統計表ニ依ツテ見マストオデッサノ如キ所
 ニ對シテハ、日本トノ貿易ハ非常ノ勢力ヲ進テ以テ來ヨル、或ル時ハ石油杯
 デ亞米利加カラ輸入スルト云フコトデ、額ガ減ツテ居ルガ、此頃ハ又非常ニ
 増シテ居ル、ソレデオデッサヲ外カラ兼帶スルモムツカシイ、又名譽領事ニ
 任カシテ居リマスカ、手ヌルクテ往カヌ、何故ニ昨年ハ出シテ、本年ハ引込マ
 シマカ、昨年否決シテモ、本年ハ又出サナケレバナラヌ、又議會ハ決シテ國
 家ニ必要ノ機關ニ使フ上ニ金ヲ惜ムコトハナイ、斯ノ如キ例ヲ擧ゲテ申セバ、
 政府ノ外交上我國ノ勢力ヲ外ニ伸張シ、國家ノ利益線ヲ外ニ保護スル點ニ於
 テハ、甚ダ冷淡甚ダ不深切ト云フ證據ハ、歴々舉ゲルコトガ出來ル、而シテ政
 府ガ一體外交上ニ斯ノ如キ不信無能無策退縮怠慢ト云フモノヲ著シテ來タノ
 ハ、何處ニ原因ガアルカト云フコトヲ一言申ス、ソレハ何デアアルカト云フニ、
 元來此内閣ト云フモノガ、斯ノ如キ國家ノ大計國家ノ利害得失ヲ見テ大ナル
 施設ヲスル、言換ヘレバ國家ノ經綸ト云フコトガ、全ク此内閣ニハナイ、其經
 綸ガナイト云フコトガ、不信ヲ來ス原因デ、主義目的ガアリ、方針ガ定ツテ居
 ルナラバ、見ルベキ所ガアルノデアアルガ、更ニ其考ガナイ、而シテ更ニ考ガ
 ナイナラバ、從來ノ方針政策ヲ追踏シテ之ヲ仕遂ゲル決心ガアレバ、マダ宜
 イガ、事蹟ノ上ニ於テ其成績ガアルベキデアアルガ、斯ル從來ノ方針ヲ斷行スル
 決心勇氣ガナイノデアアル、而シテ一ニハ是モ公然ノ秘密デアアルガ、或ル當局者
 ハ、何分外交モ是デハ仕方ガナイ、不振ヲ來スモ仕方ガナイト云フタ所ガ、
 ドウモ外務大臣ガ三人モ五人モアルカラ、實ニ仕方ガナイト云フコトヲ申シ
 タト云フコトデアアルガ、成ル程是ハ御當人ノ辯解通外務大臣ガ幾人モアツテ
 ハ、御無理モナイコトデアアルガ、御當人ガ十分ニ此切回シヲ附ケルコトガ出
 來ナイカラ、幾ラモ黑幕ガ出來ノデハナイカト思フ、是ハ即チ外交ノ不振ノ
 原因ヲ一言致シタインデアアルガ、此一年有餘ノ日月ヲ經テ何等ノ成績ノ擧
 ヲノミナラズ、却テ反對ニ輕々ノ失態ノ證據ガ擧ル、斯ノ如ク日本ノ勢力ノ
 退却シタル有様デアツタナラバ、日本ノ國ガ或ハ危險ノトキニ際會シナイカト
 云フ議論ガ立ツト云フコトデアアルト、隨分當局者ハ其器ニアラズト云フコト
 ガ推斷セラル、ソレデ、當局者ガ其器ニアラズトスルト、其配下ニ人物ガ來ラヌ
 ト云フハ、自然ノ結果デ、當局者ガ其器ニアラズ、配下ニ相當ノ人ガ來ラヌト、
 其事業ガ擧ラヌノハ、必然ノ理デアアル、而シテモウ一ツノ原因ハ是ハ多少我
 反對黨ニ於テモ御注意ニナラナケレバナラヌト云フハ、最初申ス通隨分内閣
 ノ人ハ勢力マデモ横取りニシテ、内閣ヲ造ツテ居ルト云フコトハ、非常ニ經
 綸アルカノ如ク待受ケラレタニ拘ラズ、今日愚圖々々シテ居ツテ、國務ヲ怠
 テ居ルト云フ證據ガ擧ツテ來ルト云フヲ見レバ益々政府ト云フモノガ、人ノ
 船ヲ便船ニ借り、人ノ馬ヲ借馬ニシテ行クト云フヤウナコトデアハ、斷乎トシ
 マ政策ヲ懷イテ、ソレヲ實行スルコトガ出來ヌト云フ證據デアアル、然ラバ詰
 リ政治家ガ國家ノタメニ盡力スル上ニ於テハ、我勢力ヲ有ツタ者ガ十分ニ御ヤ
 リナサル方ガ宜イ、サウシテ人ノ勢力ヲ借りテヤルト云フコトハ、御止シナ
 サレタ方ガ宜イ、ソレデモ成ル程國家ノタメニ功績ガ擧ガレバ宜イ、然レド
 モ此一年有餘ノ期限ヲ經テ、一向目ニ見エヌトスレバ、借馬内閣便船内閣ト

云フモノハ、到底國家ノ利益ヲ圖ルコトガ出來ヌト云フ譯デア、ウレデ是ハ唯政府當局者ノミナラズ、今日大度量ヲ以テ政府ニ全カク御貸シニナツテ居ル所ノ諸君モ能ク御注意ニナランコトヲ希望スル、而シテ此質問ノ要點ハ右述ベタル如キ次第デアリマシテ、尙ホ書附モアリマスカラ、不日當局者カヲ答辯ガアリマセウガ、然ルニ此答辯タルヤ、從來唯儀式的ニ言葉ノ尻ッボヲ捉ヘテ、サウシテ二百の二揚足ヲ取ルト云フヤウナリ方デハ、如何ニモ親切ナ答辯ヲ得ルコトガ出來ナイ、是ハ言フテ見レバ理窟ハ種々言ヘルモノデア、又隱レントスレバ種々隱レ道モアリマセウ、殊ニ外交ハ秘密ト云フ一言ヲ以テヤルト云フコトガ、今日マデ出來ルカラ、種々口實モアリマセウガ、免ニ形ヲ答辯ヨリハ、精神的答辯ヲセラレンコトヲ希望スルノデア、而シテ將來吾々國民タルモノガ、安心シテ指ヲ脚ヘテ默シテ見テモ、日本ノ商權ト云フモノガ外ニ伸ビ、又日本ノ勢力ト云フモノモ伸張シ居ラル、ト云フ御見込ガアルカ否ヤ、是モ十分承リタイト考ヘル、殊ニ今日ハ斯ノ如キコトヲ言フト、唯大キナ論ヲスルヤウデアレドモ、決シテサウデナイ、此頃亞米利加大統領ノ議會ニ下シテ教書ヲ見テモ、亞米利加ノ如キ國ハ、實ニ政府ガ世話ヲスル必要ガナイ程發達シテ居ル、商工業ト云ヒシ、智識ト云ヒシ、富ト云ヒシ、資本ト云ヒシ、申シヤウナイ勸キヲ爲ス國柄デア、然ルニ其大統領ノ教書ノ中ニ、特ニ支那ニ對スル亞米利加ノ利害ト云フコトニ就イテ、最モ注意サレテ居ル、獨リ亞米利加ノミデハアリマセウガ、亞米利加ノ大統領ノ教書ノ中ニ先ツ第一ニ亞米利加ガ太平洋西洋南洋ヲ占領スルニニ加拉瓦掘割ノ如キハ、最モ亞米利加ニ無限ノ利益ヲ與ヘルト云フコトヲ説キ、其次ニ亞米利加ノ航權ノ擴張、十分ニ航海事業ノ發達ヲ圖ラナケレバナラナイト云フコトヲ亞米利加ノ商權ノ伸張亞米利加ノ航權ト云フモノヲ増サナケレバナラナイト云フコトヲ申シテ、其上リニ殊ニ二目指ス所ハ支那ノ市場ト云フモノ、今日ノ狀況及製造所ノ現況ヲ調査スル必要ガアル、而シテ亞米利加ノ國產製造品ト云フモノ、市場ヲ支那ニ開墾スルト云フコトニ就イテノ手段方法ト云フモノト、竝ニ其障礙物トナルモノヲ調査セネバナラヌニ依ツテ、茲ニ其調査委員會ヲ開クノ必要ガアルカラ、國會ハ十分之ニ協贊ヲシテ金ヲ出サレタイト云フコトヲ請求シテ居ル、亞米利加ニシテ斯ノ如クデア、無論佛蘭西ト云ヒ、英吉利ト云ヒ、皆支那ニ商工業ヲ擴張スルト云フコトニ就イテ非常ナ速力非常ナ熱心ヲ以テヤリツ、アルニ拘ラズ、我當局者ハ如何ナル施設ガアルカ、如何ナル方案ガアルカ、何モシテ居ハシナイ、斯ノ如キ有様デ、是デ推移ツテ行ツタナラバ、無論今日未ダ日本ノ勢力ヲ悉ク失ツタニモアラズ、又日本ノ利益ハ放ツテ置イテモ、人民ノ個人ノ膨脹ハ致シツツアリマスケレドモ、遂ニ此日本ノ内外諸國ト競争スル上ニ於テ非常ナ失敗ヲ取リ、非常ナ後レヲ取ルト云フ結果ガ來ルニ違ナイ、固ヨリ支那ニ於ケル、朝鮮ニ於ケル、日本ノ勢力ガ一度衰ヘルナラバ、日本ノ將來ノ經濟上ノ運命知ルベキノミ、斯ノ如ク無形ノ間ニ日本ノ將來ガ誠ニ案ジラル、有様デゴザイマス、固ヨリ是ハ事實ニ於テ朝鮮ノ半島支那ノ北部ト云フモノガ、何國ノ管轄ニ歸シタト云フトキデハナイガ、未ダ其極點ニ至ラザル前ニ之ニ對スル準備ヲスルト云フノガ、即チ國ヲ預リ人民ヲ預リテ居ル所ノ當局者ノ責任デア、マダ申シタイコトモアリマスケレドモ、是ダケノコトヲ申シテ、答

辯ヲ請ハウト考ヘマス
○星亨君(九十一番) 是ヨリ選舉法ノ委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ……
○議長(片岡健吉君) 星亨君ヨリ衆議院議員選舉法改正法律案ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマスガ、御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(片岡健吉君) 許スコトニ致シマス
○堀田連太郎君(百九十九番) 是ヨリ鑛業條例中改正法律案ノ委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ……
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(片岡健吉君) 堀田連太郎君ヨリ鑛業條例中改正法律案ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマスガ、御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス
○關信之介君(二百二十四番) 是ヨリ民法第七十九條及第八十一條ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル法律案ノ委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ……
○議長(片岡健吉君) 何ノ法律案デス
○關信之介君(二百二十四番) 民法第七十九條及第八十一條ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル法律案ノ委員會デゴザイマス
○議長(片岡健吉君) 關信之介君ヨリ民法第七十九條及第八十一條ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル法律案ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマスガ……
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス

○安部井磐根君(百四十八番) 本員等ハ閣臣ノ責任ニ關スル質問書ヲ提出シマシタ、要ハ本文ニ掲ゲ、微ハ理由書ニ書イテゴザイマスカレドモ、口頭尙糊辯明ヲシマス、此件ヤ實ニ重大ナル問題デゴザリマス、諸君ニモ一應御聽置ヲ願ヒタウゴザイマス、デ先ツ本文ダケヲ朗讀シマス
閣臣職責ニ關スル質問主意書
昨年三月會計検査院ニ關スル事項安川繁成ノ質問ニ對シ政府ノ答辯スル所益々疑アリ

一 政府ノ答辯ハ 天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有スル會計検査院ノ決議ニ付テハ國務大臣ハ何等ノ處分ヲ爲ス能ハス隨テ是等ノ決議ニ關シ國務大臣ハ是非ノ意見ヲ表示スルノ限リニ在ラスト云フニアリ抑、會計検査院ハ政府ノ會計ヲ監督スル爲ニ獨立ノ資格ヲ有セサルヘカラス故ニ其組織及職權ハ裁判官ト同シク法律ヲ以テ之ヲ定メ行政命令ノ區域外ニ在ルニ過キササルノミ豈大政以外其門ヲ二ニスルモノナランヤ然ルモ猶國務大臣ハ之ニ對スル責ナシト云フ歟

二 政府ノ答辯ハ會計検査院部長安川繁成検査官吉田市郎外二名ノ退官ハ會計検査官會議ニ於テ明治二十九年法律第九十一號ニ依リ決定セシモノナレハ國務大臣ハ其當否ニ關シ是非ノ意見ヲ表示スヘキ限リニアラスト云フニアリ

凡立憲ノ目的ハ主權ノ使用ヲシテ正當ナル軌道ニ由ラシムルニ在ルハ固

衆議院議事速記録第十三號

ヨリ論ナシ然ルニ其退官會議ノ如キ八名ヲ法律ニ藉リシノ形式上ヨリ見ルモ事實上ヨリ見ルモ會議其會議ニアラス況ンヤ正理空シタ不義ノ勢力ニ歴シ去ラレテ大政ノ環璣ト爲ルニ於テヤ然ルニ猶國務大臣ハ其名ノ法律ニアルヲ以テ立憲ノ目的ニ反スルモノト認メサル歟

三 憲法第五十五條ノ一項ニ凡テ法律勅令其他國務ニ關スル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ストアリ是則大臣擔當ノ權ト責任ノ義トヲ表明スル者故ニ朝廷ノ失政ハ署名ノ大臣其責ヲ免レサルコト固ヨリ論ナク假令署名セサルモ議ニ預レハ其責ヲ引クヲ以テ至當トスヘキニアラスヤ然リ而シテ署名大臣本分ノ力ヲ法律組織ニ係ル會計検査院ノ非行ニ致サス却テ責ヲ大權ニ歸ス可ナラン歟

以上三項デゴザイマスル、此中一二項ハ昨年三月ノ答辯ニ附イテ尙不審ヲ起シマシメ、後トノ一項ハ別ニ添ヘテ質問スルノデゴザイマス、マア文ニモ大抵盡シテアル積デゴザイマスルカラ、他ニ喋々スルヲ用ヒナイヤウデゴザイマスル、併シ政府ノ答辯ハ如何ニモ曖昧模糊トシテ眞ニ解スルコトハ出來ナイノデアリマス、茲ニ 天皇ニ直隸シ國務大臣ニ云々ト云ヒマシタルハ、是ハ會計検査院ヲ獨立セシメテ、行政命令ノ外ニ置クガタメニ其検査院法ノ第一ニ掲ゲアル文字デゴザイマス、會計検査院ハ敢テ憲政ノ中ノモノデナイト云フコトハゴザイマス、即チ憲政中ノモノデゴザイマス、憲政ノ責任スル人ハ何人デアアル、輔弼ノ大臣デゴザイマス、且ツ本員等ト雖モ此検査院ニ對シテ指揮命令ヲセヨトハ申シマセヌ、併シ大權ノ作用ト云フモノハ、如何様ニモ遊バセラレルモノデゴザイマシテ、例ハ裁判所ノ如シ、即チ 天皇ノ大諱ヲ以テ刑名ヲ宣告シマシテ、シマスルト云フハ、畢竟大御心ヲ以テ處刑スルノデアアルト云フ意味ヲ含シタモノデゴザイマセウ、サリナガラ大權ハ其上ニアリマシテ、是ハ實際ノナイモノデアリマスルカラ、減刑セヨト云フ勅詔下レバ、即チ畏テ減刑ノ宣告更ニ仕直スノデゴザイマス、併其勅詔ノ下レバ、何處デ致ス言ツタラ、内閣會議ノ即チ奏請ト云フ手續デ茲ニ至ルモノデ、恐ナガラ 御上ニハ一ニ大臣等ノ奏請ヲ待テ御裁可遊バサルモノデゴザイマシテ、責任ハ悉ク大臣ニ在ルハ、言フマデモナイコトデゴザイマス、ソシテ又茲ニ「其決議ニ付テハ」トゴザイマスガ、此決議ト云フモノハ検査院ニ不法決議ト指スモノガ、二ツアリマシテ、最初ハ四月ノ十日、後トハ五月ノ五日ト、此二回アルノデゴザイマス、是ハ兩方ヲ含メテ答辯カモ知レマセヌケレドモ、其五月五日ノ會議ノコトハ爾後ニ致レテ居リマスルカラ、今ハ先ヅ四月十日ノ決議ヲ以テ申シマスルガ、アリヤ決議トハ言フモノ、ソコガ暴ノ暴ナル仕方ニ陷ツテアルノデアリマス、今更事新シク言ハズトモ、諸君モ御聞及ビノ通デアリマセウ、此本ト云フモノハ法律ヲ無視シ、苟モ検査院長ノ上奏ヲスルト云フコトハ、會計検査院ニ於テ總會議ヲ經テ總會議ノ決議ヲ所デナケレバ、之ヲ上奏スルコトハ許サヌハ、法律明文ニ明ナルコトデアリマス、ソレヲ竊ニ三月八日ニ上奏シタト云フコトガ、此紛議ノ種ニナツタノデアリマス、一體ハ二十九年ノ年末カニ一度ヤツタサウデアリマスガ、四五名ノ腹心ノ者ハ知ツテモ、居ツタカ知ラヌガ、院中知ル者ハナイ、三月八日ニ宮中ヨリ退出シ來ツテ、某ノ院中ノ者ヲ集メテ話シタカラ、正義ノ者、ソレハ大變ダ、法律ヲ破ツタト云フ議論ニナリマシ

テ、一時ハ此法律擁護ノ正義派モ多數ヲ占メテ、渡邊昇ハ之ニ對シテ往々買収デモアリマス、マイガ、變節議員ガ——變節者ガ出來マシテ、ヤウノ頭數ノ方ガ數ヲ制スルニ至ツタノデ、四月十日ニ議會ヲ開イテ、其上奏ヲシタト云フモノハ會計検査院ノ成績表ヲ呈シメ、モヤナイ、功程圖ヲ差上ゲタモノデアアルト云フ口實ヲ造リマシテ、検査院法中十五條ヲ破ツテ、検査院法一條四條ニ據テ是ニ恣ニ害ヲ附加シテ、決議シタモノデアリマシテ、決シテ相當ニ當ノモノガヤナイ、併シ時ニ當ツテ世上ノ輿論モ驚キマスルデ、裏面ニモ其輿論ヲ鎮壓ノ心得ヲ以テ、其決議ヲ四月十二日ニ官報ニ掲ゲテ今以テ依然下シテ取消モナクアルノデアリマス、之ヲ一ヨリシテモ曲當シタト云ウテ宜イカ、破ツタト云ウテ宜イカ、決シテ其決議ニアラスト云フコトハ、明ナルモノデアリマス、一體國務大臣ガ大政ノ責任ニ任シテ、輔弼ノ責任シテアルハ、コ、ガ注意ノシ所デゴザイマシテ、立憲ノ目的ト云フモノハ法律以外ノ軌道ニ踰越スルコトヲ許サヌノデアリマス、殊ニ此検査院ヲ憲政以外ノモノ、ヤウニ云ヒマシタルコトハ、是ハ奇怪ナル言デゴザイマス、第一項ノ問デゴザイマス、次ニハ彼ノ無法退官處分ノ方針ニ附イテ、又出タノデアリマス、是將タ九十一號ニ據ツテ決定シタモノダモノダカラ、國務大臣ハ其當否ニ關シテ種々ノ意見ヲ表示セヌト云フノデアリマスガ、是ハ決定ト云フモノカ——矢張決定ガヤナイ、是ハ五月ノ五日ニ至リマシテ、俄然ト此會議ヲ起シ、縱令下地ハ出來テ居ツタデアリマセウケレドモ、俄ニ何等カノ書附ヲ出シ、質問モナケレバ、答辯モナイ中ニ、決シテシマツタ、安川繁成君等ノ正義派ハ、相變ラズ例ノ通早朝ヨリ出マシテ執務ヲシツ、アル、會議ノ起ツタコトナドハ知ラナイ、サル折ニ俄ニ決議シタ、ソレカラ書記官ノ某トカ申ス者ヲ以テ、最早退官ノ處分ヲ申立テルカラ云々ト云フヤウナコトヲ本人達ニ通シタ、大ニ驚キマシテ、其九十一號ノ法律ト雖モ敢テ其當人ヲ退席サセテ議決セネバナラヌト云フ明文ハナイ、其理由ヲ御示下サイト云フ所ガ、ソレハ秘密會ダカラ示サレズシテ、又一旦渡サレタ書面ヲモ祕密ノ故ヲ以テ殘ラズ取上ゲテシマツテ、何ヲ書イタカ分ラヌト云フヤウナ有様、ソレナラ愈、祕密ニスルカト云フト、是ハ東京通信等ノ原稿ニ渡シテ遺ル、且ツソレ身體健全如何ニモ職務ニ勤勉シツ、アツテ、此法律ヲ擁護シタイト云フ正義者ヲ、イヤ狂人ダ、精神衰弱デ職務ヲ執ルニ足ラヌト云フヤウナ詐リヲ拵ヘテ、之ヲ上奏シタノデアリマス、ソシテモノヲ以テ九十一號ノ議決ダカラ口ガ這入ラヌト云フヤウナコトヲ云フ無責任ナル大臣ノ心ハ分ラナイガヤリマセヌカ、ソレデ是ハ立憲ノ目的ニ反シタル次第デアリマス、二項ニ於テハ之ヲ質問シタノデアリマス、三項ハ即チ大臣ノ責任ヲ愈、明ニスルタメニ、憲法ノ成文ヲ引キ來ツテ一條ヲ添ヘラレタノデアリマス、唯己ガ責ヲ免ル、ノミナラズ、煩累ヲ大權ニ及シ奉ツタ言分ト看做サル、ノデアリマス、是ハ殊更ニ添ヘナケレバナラヌ道理ト信シテ、斯ノ如クニ致シマシタノデアリマス、先ヅ質問ハ以上ノ三項デゴザイマス、以上三項ノ質問ハ盡ク憲法及ビ法律ノ支柱タル大臣ノ責任論デゴザイマシテ、最重要ナルコトハ、固ヨリ申スマデモナク、其決スル所其及

テ、一時ハ此法律擁護ノ正義派モ多數ヲ占メテ、渡邊昇ハ之ニ對シテ往々買収デモアリマス、マイガ、變節議員ガ——變節者ガ出來マシテ、ヤウノ頭數ノ方ガ數ヲ制スルニ至ツタノデ、四月十日ニ議會ヲ開イテ、其上奏ヲシタト云フモノハ會計検査院ノ成績表ヲ呈シメ、モヤナイ、功程圖ヲ差上ゲタモノデアアルト云フ口實ヲ造リマシテ、検査院法中十五條ヲ破ツテ、検査院法一條四條ニ據テ是ニ恣ニ害ヲ附加シテ、決議シタモノデアリマシテ、決シテ相當ニ當ノモノガヤナイ、併シ時ニ當ツテ世上ノ輿論モ驚キマスルデ、裏面ニモ其輿論ヲ鎮壓ノ心得ヲ以テ、其決議ヲ四月十二日ニ官報ニ掲ゲテ今以テ依然下シテ取消モナクアルノデアリマス、之ヲ一ヨリシテモ曲當シタト云ウテ宜イカ、破ツタト云ウテ宜イカ、決シテ其決議ニアラスト云フコトハ、明ナルモノデアリマス、一體國務大臣ガ大政ノ責任ニ任シテ、輔弼ノ責任シテアルハ、コ、ガ注意ノシ所デゴザイマシテ、立憲ノ目的ト云フモノハ法律以外ノ軌道ニ踰越スルコトヲ許サヌノデアリマス、殊ニ此検査院ヲ憲政以外ノモノ、ヤウニ云ヒマシタルコトハ、是ハ奇怪ナル言デゴザイマス、第一項ノ問デゴザイマス、次ニハ彼ノ無法退官處分ノ方針ニ附イテ、又出タノデアリマス、是將タ九十一號ニ據ツテ決定シタモノダモノダカラ、國務大臣ハ其當否ニ關シテ種々ノ意見ヲ表示セヌト云フノデアリマスガ、是ハ決定ト云フモノカ——矢張決定ガヤナイ、是ハ五月ノ五日ニ至リマシテ、俄然ト此會議ヲ起シ、縱令下地ハ出來テ居ツタデアリマセウケレドモ、俄ニ何等カノ書附ヲ出シ、質問モナケレバ、答辯モナイ中ニ、決シテシマツタ、安川繁成君等ノ正義派ハ、相變ラズ例ノ通早朝ヨリ出マシテ執務ヲシツ、アル、會議ノ起ツタコトナドハ知ラナイ、サル折ニ俄ニ決議シタ、ソレカラ書記官ノ某トカ申ス者ヲ以テ、最早退官ノ處分ヲ申立テルカラ云々ト云フヤウナコトヲ本人達ニ通シタ、大ニ驚キマシテ、其九十一號ノ法律ト雖モ敢テ其當人ヲ退席サセテ議決セネバナラヌト云フ明文ハナイ、其理由ヲ御示下サイト云フ所ガ、ソレハ秘密會ダカラ示サレズシテ、又一旦渡サレタ書面ヲモ祕密ノ故ヲ以テ殘ラズ取上ゲテシマツテ、何ヲ書イタカ分ラヌト云フヤウナ有様、ソレナラ愈、祕密ニスルカト云フト、是ハ東京通信等ノ原稿ニ渡シテ遺ル、且ツソレ身體健全如何ニモ職務ニ勤勉シツ、アツテ、此法律ヲ擁護シタイト云フ正義者ヲ、イヤ狂人ダ、精神衰弱デ職務ヲ執ルニ足ラヌト云フヤウナ詐リヲ拵ヘテ、之ヲ上奏シタノデアリマス、ソシテモノヲ以テ九十一號ノ議決ダカラ口ガ這入ラヌト云フヤウナコトヲ云フ無責任ナル大臣ノ心ハ分ラナイガヤリマセヌカ、ソレデ是ハ立憲ノ目的ニ反シタル次第デアリマス、二項ニ於テハ之ヲ質問シタノデアリマス、三項ハ即チ大臣ノ責任ヲ愈、明ニスルタメニ、憲法ノ成文ヲ引キ來ツテ一條ヲ添ヘラレタノデアリマス、唯己ガ責ヲ免ル、ノミナラズ、煩累ヲ大權ニ及シ奉ツタ言分ト看做サル、ノデアリマス、是ハ殊更ニ添ヘナケレバナラヌ道理ト信シテ、斯ノ如クニ致シマシタノデアリマス、先ヅ質問ハ以上ノ三項デゴザイマス、以上三項ノ質問ハ盡ク憲法及ビ法律ノ支柱タル大臣ノ責任論デゴザイマシテ、最重要ナルコトハ、固ヨリ申スマデモナク、其決スル所其及

血清ヲ購入スル、其經費ガ併テ二十八万七千九百八十八圓デアリマシテ、内務省ノ要求ニナツテ居リマス、ソレカラ大藏省ノ要求ニ於キマシテ、税關ノ構内デアリマスルガ、貨物出入ノタメニ非常ノ雜踏ヲ極メテ、自然此汚物杯ガ生シ易イカラシテ、是モ矢張其「ベスト」豫防上ノ設備ヲ必要トスルカラ、其タメニ

三千二百二十四圓ノ經費ガ大藏省ノ所管トシテ要求ニナツテ居リマス、ソレカラ文部省ノ所管ニ於キマシテハ、帝國大學ニ於キマシテ獨逸ノ「エンゲル」ト云フ人ガ大變ニ統計ニ有名ナ人デアリマシテ、是ハ誠ニ世界稀有ノ材料等モ多ク集メテ居ルカラ、此人ノ集メテ居ル統計ノ材料書類ト云フモノガ此

度賣物ニナリマシテ、誠ニ是ハ世界得難キ所ノ必要ナル統計ノ材料書類デアリマスカラシテ、之ヲ買ヒタイト云フンデアリマス、其金額ガ六千八百八十四圓デアリマス、ソレカラ肥料検査員養成所ト云フモノヲ新ニ設ケナケレバナ

ラヌ、其經費ノ總額ガ六千四百圓デアリマス、是ハ三十三年度ニ互ル繼續費ニナツテ居リマス、其年割額ガ三十二年度ノ分ガ三千五百八十四圓デアリマス、是ハ農商務省ヨリノ請求ニナツテ居リマス、總テ此財源ハ債金特別會計ヨリ

繰換ヘ支辨ヲスルト云フコトニナツテ居リマス、是ガ第三號ノ追加豫算ノ大體ノ要領デアリマス、併テ特第一號ノ方モ報告ヲシテ置キマス、是ハ内務省ノ臺灣總督府ノ分デアリマスルガ、此經常部ト臨時部ニ於キマシテ歳入ノ五十

七万三千六百五錢、是ハ臺灣ノ官業並ニ官有財産ノ收入ガ五十五万九千四百一十一圓三十三錢六厘ト、ソレカラ前年度ノ繰入レ金ガ臨時部ニ於キマシテ

二万二千六百六十四圓七十一錢四厘、之ヲ併セマシテ今申ス通五十七万三千六百五錢ト爲ルデアリマス、此歳入ヲ以テ歳出ニ應ズル計蓋ニナツテ居リ

マシテ、其歳出ハ食鹽專賣所、ソレカラ製茶所樟腦專賣所其他臨時ノ事業費デアリマシテ、歳出ガ五十七万三千六百五錢、丁度歳入歳出金高ガ合ハサツ

テ居リマスルカラシテ、是ダケノ歳入ヲ以テ今申ス所ノ歳出ニ應ジタイト云フ特別會計ノ分デアリマスルデス、ソレカラ文部省ノ所管ニ於キマシテ東京

帝國大學ノ歳出經常部ノ方ガ、是ハ醫科大學院ノ收入金ガ千九百九十五圓デアリマシテ、ソレカラ圖書機械費受入金ト云フモノガ六千八百八十四圓

アリマス、合テ八千八百七十九圓ノ歳入デアリマシテ、歳出ノ方ハ此臨時部ノ方ニ於テ圖書器械ノ買入並ニ此東京醫科大學ニ於キマシテ、用水ト云フモ

ノガ甚ダ宜シクナイ、ソレデ此水道鐵管ヨリ給水ノ仕掛ケヲスルト云フコトデアリマシテ、是ガ千九百九十五圓デアリマシテ、併セテモ其歳出ノ分ガ八千八百七十九圓、丁度歳入ト歳出ガ特別會計ニ於キマシテ、同一ノ金額ニ

ナツテ居リマスル、先ツ是等ガ主ナル事項デアリマシテ、豫算會ニ於キマシテハ、分科ニ於テ種々質問モ致シ、慎重ニ審議ヲ遂ゲマシタ結果、格別是ト

申ス修正ヲ致スヤウナ箇所モナカッタデアリマスルカラシテ、豫算委員會ニ於キマシテハ、全會一致ヲ以テ可決ヲ致シタデアリマスルカラシテ、ド

ウカ格別ノコトガアリマセヌケレバ、今日御決議ヲ願ヒタイデアリマス

○恆松隆慶君(百四十三番) 唯今委員長カラ報告ニナリマシタ追加豫算ハ總

テ皆緊急ノ問題デゴザイマス又分科會モ總豫算會モ孰モ協賛ヲ與ヘタモノデゴザイマスカラ、ドウカ此場合日程ヲ變更シテ直チニ可決アラントヲ希望致シマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 今豫算委員長ノ報告ニ依リマシテ議事日程ヲ變更シテ明治三十二年度總豫算追加案及明治三十二年度特別會計追加豫算案ヲ議スルト云フ恆松隆慶君ノ動議ガアリマス、御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ議事日程ヲ變更スルコトニ決シマス、サウスルト初二號明治三十二年度歳入歳出總豫算ノ追加案ヲ全部議題ニ供シマス

〔第三號〕明治三十二年度總豫算追加

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 全部御異議ガナケレバ原案ノ通決シマス、次ハ特第一號明治三十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加案全部ヲ議題ニ供シマス

〔特第一號〕明治三十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 原案ノ通御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案ノ通決シマス、是ヨリ議事日程ノ第一ニ移リマスルガ、是ハ政府ノ都合ニ依ッテ議事日程ヲ延シテ貰ヒタイト云フコトデアリマス、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ第一ノ日程ハ延スコトニ致シマス、議事日程第二、飲食物其他ノ物品取締ニ關スル法律案第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 飲食物其他ノ物品取締ニ關スル 第一讀會ノ續(委員長報告)

〔岡田龍松君演壇ニ登ル〕

○岡田龍松君(百六十四番) 飲食物其他ノ物品取締ニ關スル法律案ノ委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ本月ノ十八日ニ委員會ヲ開キマシテ、政府委員ノ臨席ヲ待ツテ、種々質問審議ノ末、本案ハ衛生上必要ノ案デゴザイマスルガ故ニ、委員會ハ全會一致ヲ以テ本案ヲ可決致シマシタ、ドウゾ諸君ノ御贊成ヲ得テ、速ニ原案ノ通可決アラントヲ希望致シマス、此段御報告致シマス

○恆松隆慶君(百四十三番) ドウカ直チニ二讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シ

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 本案ハ直ニ二讀會ヲ開クコトニ付イテ、御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ、直ニ二讀會ヲ開クコトニ致シマス、全部ヲ議題ト致シマス、朗讀ヲ省略致シマス

飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律案(政府提出) 第二讀會

○恆松隆慶君(百四十二番) ドウカ直ニ二讀會ヲ確定ニシテ、朗讀ヲ希望ヲ致シマス

○議長(片岡健吉君) 第三讀會ヲ省略ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ三讀會ヲ省略スルコトニ致シマス

飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律案(政府提出) 確定議

○議長(片岡健吉君) 原案ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ本案ハ原案ノ通決シマス——議事日程ノ第三、府縣都市町村其他ノ公共團體ノ所有地免租ニ關スル法律案第一讀會ノ續委員長報告、中村榮助君

府縣都市町村其他ノ公共團體ノ所有地免租ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

(中村榮助君演壇ニ登ル)

○中村榮助君(二番) 諸君ニ本案特別委員會ノ經過ヲ御報告致シマス、本案即チ此府縣都市町村ト是ニ準據シマス所ノ公共團體ノ所有地ヲ公用ニ供シテ居ル者ニ、即チ地租及公課ヲ免ズルト云フノデゴザイマスルガ、是ハ既ニ今日マデ單行法ヲ以テ免セラレテ居ルノデゴザイマシテ、其種類ヲ舉ゲマスレバ、水道用地ノ如キ、或ハ傳染病豫防ニ關スル所ノ避病院用地、或ハ砂防工ト云フヤウナ類デアアルデゴザイマス、デ此案ノ趣旨ハ將來此法律ヲ以テ履行スル、是ハ取りモ直サズ單行法ヲ拵ヘズシテ、之ニ依ッテ免稅シテ往キタイト云フ趣旨デアアル、斯ル單簡ナル趣旨明瞭ナル法律案デアリマス故、全會一致ヲ以テ本院ニ於テ可決スベキモノト決議致シマシタノデゴザイマス、御報告致シマスコトハ、是ダケデアリマス、此段御報告致シマス

○恆松隆慶君(百四十二番) 此案ハ極簡單デアリマスカラ、ドウカ讀會省略ヲ確定アラシコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 恆松隆慶君ヨリ讀會省略ノ動議ガ出マシタガ、御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ) 御異議ガナケレバ讀會ヲ省略スルコトニ致シマス

衆議院議事速記録第十三號 明治三十三年一月二十二日

飲食物其他ノ物品取締ニ關スル法律案 第一讀會ノ續(委員長報告) 府縣都市町村其他ノ公共團體 二二二

府縣都市町村其他ノ他ノ公共團體ノ所有地免租ニ關スル法律案(政府提出) 確定議

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 本案ハ今委員長ノ報告ノ通原案ニ御異議アリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案ノ通決シマス、次ハ議事日程第四刑法中改正法律案第一讀會、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第四 刑法中改正法律案(安藤龜太郎外四名提出) 第一讀會

刑法中左ノ通改正ス

第三百十一條 本夫又ハ本婦其配偶者ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫又ハ本婦姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

第三百五十三條 有婦ノ夫又ハ有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫又ハ本婦ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫又ハ本婦姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ

(安藤龜太郎君演壇ニ登ル)

○安藤龜太郎君(二百八十一番) 諸君、本員等ハ刑法中改正法律案ヲ提出致シマシテゴザイマスカラ、聊提出ノ理由ヲ述ベテ、諸君ノ御贊成ヲ得ヤウト云フ考デアリマス、暫ク御清聽アラシコトヲ、天ハ人ノ上ニ人ヲ造ラズ、人ノ下ニ人ヲ造ラヌト云フ格言ハ、實ニ吾人ヲ欺カヌコトデア、凡ソ人類ガ生ラレテ、未ダ人智ガ開ケズ、又天賦人權ノ何タルヲモ辨ゼザル時代ニ於キマシテハ、固ヨリ婦女ノ權利ヲ認メヌコトモアリマス、此ノ如キ場合ニ於キマシテハ、實ニ危怪變態ナ現象ヲ往々生ズルコトガアリマスケレドモ、今ヤ交運ハ大ニ發達シ人智ハ開發シテ參リマシテ、即チ私權ト公權トノ區別ハ劃然判然致シマシテ居リマシテ、今ヤ二十世紀ニ入ラントスル今日ニ於テハ、縱令婦女ノ權利ト雖モ、仁人ハ之ヲ尊重シ、又天賦ノ幸福ヲ全ウセント云フヤウナ域ニ殆ド至リマシテゴザリマス、是レ誠ニ宇内ノ大勢ニ徴シテ、決シテ已ムベカラザル潮向兆候デアリマスデアリマス、デ我國維新以來制度文物ノ模規ハ、大概之ヲ泰西ニ取リマシテ、而シテ未ダ刑法ヲ改正スル場合ニ於テハ、十分舊套ヲ脱却スルコトガ出來ズシテ、矢張古來ノ習慣ニ依ッテ、此刑法ヲ制定シタト云フコトニ於キマシテハ、吾々ガ甚ダ遺憾ト致ス所デアリマス、デ即チ現行法ノ第三百十一條ヲ見マスルト、此ノ如クナッテ居リマス「本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ

宥恕ス但シ本夫義ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラストアリマス、如何ニ男子ハ立法ノ權利ガアル強者デアル、故ニ男子ハ非常ナ勢ト權力ノアル者デアルカラシテ、婦女子ノ孱弱者ハ、縱令其權利ヲ全ク脱却シテモ差支ナイト云フヤウナ、實ニ此三百一十一條ノ如キハ、殘酷ナ本員ハ法律ト思フノデアリマス、如何トナレバ「其本夫ガ妻ノ姦通ヲ覺知シテ姦所ニ於テ直ニ殺傷シタルモノハ其罪ヲ宥恕ス」而シテ之ニ反對シテ、若シ妻ガ其本夫ノ姦通ヲ覺知シテ姦所ニ於テ殺シタナラバ、是ハ何ニ問ハレルデゴザンセウ、即チ謀殺罪ニ謀故殺罪ニ問ハレル、甚シキハ死刑ニ處スト云フヤウナ結果ニナルデアラウト本員ハ考ヘマス、サレバ男女ノ權利ハ固ヨリ天賦同等デアルニモ拘ラズ、此ノ如キ偏頗不公平ナ法律ト云フモノハ、實ニ吾々ハ之ヲ改正セヌケレバナラヌト云フ必要ヲ認メタノデアリマス（「ヒヤノ」ト呼フ者アリ）而シテ又第三百五十三條ノ第一項ニ依リマスルト「有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者又同シト」アリマス、デ此ノ如キ規定モ甚ダ本員ハ不當ト思フ、如何トナレバ有夫ノ婦即チ人ノ夫人タル者ガ他ノ男子ト姦通ヲシタ時分ニハ、六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス、最モ重刑ニ處シテアルニモ拘ラズ、若モ其夫タル者ガ他ノ女子ニ姦通シテモ、一向其罪ヲ問ハヌト云フコトニナツテ居リマス、此ノ如キ規定ハ甚ダ不當ト言ハナケレバナラヌ、夫レ此ノ如ク有夫ノ婦ニシテ他ノ男子ト姦通シタル者ハ、刑法ハ之ヲ嚴刑ニ問フモ、若シモ有妻ノ男子ガ他ノ女子ニ姦通シタトキニハ、之ヲ不問ニ置クト云フコトハ、實ニ解スベカラザル本員ハ規定ト思フ、デ蓋シ我國ハ如何ナル——斯ウ云フ法律ガマデ出テ來タカト考ヘマスルト、古來家族制度ノ主義ガ大ニ行レテ、ツレガタメニ男子ハ一家ノ長デアル、其妻タル者ハ唯其一家族ニ止ルノデアアル、故ニ男女ノ權利ハ非常ニ差異ガアル、決シテ同等ノモノデハナイト云フコトヲ古來カラ認メタ結果デ、此ノ如キ法律ガ出來タラウト本員ハ考ヘテ居リマスデ、成ル程妻ノ姦通ハ其夫ニ負フ所ノ所謂貞節ノ義務ヲ破リ、又其夫ニ對シテハ拭フベカラザル汚辱ヲ與フルノミナラズ、甚シキハ他ノ血統ヲ混シ、又ハ一家ノ秩序ヲ破リ、恐ルベキ弊害ガアルト云フコトハ、明ナコトデアリマス、デ然レドモ女子ハ果シテ姦通ヲスル場合ニハ、此ノ如キ惡結果ヲ來ス、然ルニ男子ハ他ノ婦女ト猥ニ通シタ時分ニハ、此ノ如キ弊害ハナキトモ、少クモ非常ニ社會ノ風紀ヲ紊亂シ、社會ノ大ニ秩序ヲ亂スト云フコトハ、是亦明ナ事實デゴザイマス、サレバ一方ニノミ重クシテ、一方ニ一向其刑ヲ加ヘヌト云フコトハ、果シテ是ガ公平ナル規定デアルヤ否ヤ、吾々ハ實ニ此ノ如キ規定ハ法律ノ公平ナラザルモノト斷言シテ憚ラヌ所デゴザイマス、故ニ本員等ハ刑法ニ於テ此ノ如キ改正ヲ加ヘルト云フ考デゴザイマス、即チ第三百一十一條ハ「本夫又ハ本婦其配偶者ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直ニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但シ本夫又ハ本婦姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス」デ、第三百五十三條ハ「有夫ノ夫又ハ有夫ノ婦姦通シタルモノハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相

姦シタル者亦同シ」此條ノ罪ハ「本夫又ハ本婦ノ告訴ヲ待ツテ其罪ヲ論ス但シ本夫又ハ本婦姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ」斯ノ如ク修正ヲ致サウト云フ考デゴザイマス、而シテ其姦通ト云フコトハ如何ナルコトヲ申スカト申シマス、有妻ノ男子ガ他ノ有夫ノ女子及無夫、即チ夫ナキ女子ニ通シ、又有夫ノ女子ガ他ノ有妻ノ男子及無妻ノ男子ニ通ズルノ即チ姦通ト申ス所以デゴザイマス、斯ノ如ク法律ヲ改正致シマストキニハ、即チ一夫一婦ノ通義ニモ適ヒ、又男女同權ノ權利ヲ認メテ、大ニ法律ノ公平ヲ得タルモノト考ヘマス、聊ソレニ附イテ理由ヲ又茲ニ述ベヤウト云フ考デゴザイマス、熟シ我國人民ノ現狀ヲ見マスルノニ、一夫一婦ノ人倫ハ大ニ壞敗シテ、從ツテ其人ヲ害シ、家ヲ害シ、併テ其國ヲ害スルト云フ弊害ハ、實ニ尠少デハナイノデアリマス、成ル程法律上及戶籍面ニ於テハ、一男ハ唯一女ヲ娶ルモノトシテアリマスケレドモ、ツレハ實ニ唯表面ノコトニシテ、實際有妻ノ男子ニシテ不道ノ交際ヲ爲スモノハ、實ニ尠少デハナイノデアリマス、誠ニ斯ノ如キハ其人ノ妻タル者ヲ辱メ、而シテ人倫ノ大本ヲ滅絶スルモノト云ハナケレバナラヌノデアリマス、蓋シ斯ノ如キモノハ、表面ニ於テハ唯一夫數妻ヲ有スルト云フ名目ノナイバカリニナツテ居ラズ、其實際ニ至ツテハ未ダ一夫ニシテ數妻ヲ有スルモノト大差ハナイデアリマス、本員等曾テ之ヲ聞キマスルノニ、即チ冠婚喪祭ト云フモノハ、實ニ禮ノ大ナルモノデアアル、或ハ曰ク、君子ノ道ハ端ヲ夫婦ニ爲スト云フコトモ申シテ居リマス、又禮ハ夫婦ヲ慎ムニ始マルト云フコトヲ古人ハ申シテ居リマス、斯ノ如ク一夫一婦ハ實ニ人倫ノ大本ニシテ、其關係スル所ハ最モ宏大デアリマス、然ルニ一人ノ男子ニシテ二人以上ノ妻ヲ聘セントスルハ、殆ド其所爲ヲ目シテ、之ヲ人類ノ爲スベキ即チ人倫ニ適合シタモノト云フベキヤ否ヤ、甚ダ斯ノ如キハ人倫ノ道ニ背反シテ居ルモノト云ハナケレバナラヌ、今一夫多妻ノ此社會ニ影響スル最モ著シイモノヲ舉グレバ、左ノ如クデアリマス、固ヨリ此男女兩性ハ必ズ同一ノモノトハ申サレマセヌ、成ル程男子ハ強クシテ女子ハ體力ニ於テ大ニ弱イト云フヤウナ、或ハ智識ニ於テモ差違ガアルノデゴザイマセウガ、併シ免ニ角其數ニ於テハ、均一ト云フコトニナラヌケレバナラヌ、尤モ其國ノ狀態或ハ其時ノ形狀ニ於テハ、或ハ同一ニナラヌコトガゴザイマスカ知リマセウガ、大體ハ先ヅ同一ト見テ敢テ差支ナイト本員ハ思フ、サレバ我日本ノ總數ヲ假ニ四千万トシマス、其場合ニ一人ノ男子ニシテ二人以上ノ妻ヲ有スル者トシマシタナラバ、ドウ云フ結果ガ生ズルデゴザイマセウ、即チ是ハ本員ガ申サヌデモ、明ナ話デゴザイマセウ、一千万人ノ女子ノ所ヘ二人以上ヲ取ツタナラバ、果シテ後ハ殘ル者ハ幾アラルノデゴザイマセウ、然ラバ是ニ對シテ即チ無妻ノ者ガ澤山生ゼンケレバナラヌト云フ結果ニナルノデゴザイマセウ（然リ然リト呼フ者アリ）決シテ斯ノ如キコトハ、人類ノ相愛スル所ノ點ニ於テ大ニ本員杯ハ患フベキ結果ト思フデアリマスデ、又夫婦ハ共ニ室家ヲ同シウシテ長ク偕老同穴ノ樂ヲ同シウスルモノデアアル、然ルニ今其夫タル者

ガ猥リニ他ノ女子ニ通ズル、其結果ハ妻ノ嫉妬ト爲リ、猜疑トナリ、延テハ其兒孫ノ上ニ惡癖ヲ養成スルト云フヤウナ結果ニナルノモ、實ニ患フベキノ至リト本員ハ考ヘマス、借其他此弊害ニ伴フ所ヲ申シマス云フト、凡ソ此婦人ト云フ者ハ、實ニ其子ヲ養ヒ一家ヲ經理スル上ニ於テ、必要ナル者デアアル、最モナケレバナラヌモノデアアル、然ルニ其夫タル者ガ、亂行醜行ガアレバ、妻ハ必ズ嫉妬ヲ起スノミナラズ、其子ノ教育ヲ十分ニ致スト云フヤウナコトモ大ニ缺ケル所ガアツテ、甚ダ一夫多妻ノ結果ハ恐ルベキモノト本員ハ考ヘル、借又モウ一ツ弊害ヲ申シマス云フト、上ノ好ム所下實ニ之ニ從フト云フコトハ、本員ガ申サヌデモ明ナコトデアリマセウ、即チ今日現在ノ藝娼妓ノ數杯ガ、ドノ位アルト申シマス云フト、凡ソ五十万人モ全國デアアルサウデゴザイマス、假ニ此五十万人ノ藝娼妓ニ漂客ガ一日ニ一圓宛投ズルト見テモ、一日ニ五十萬圓ノ金額ヲ無駄ニ費消スルト云フヤウナコトニナル、之ヲ詰リ一箇年ニ見マスルト云フト、隨分巨額ナ金ニナル、斯ノ如キハ實ニ延テ一國ノ大ニ經濟ニ影響スルト本員ハ考ヘマス、男子ト女子ト一旦夫婦ニナツタ以上ニ於キマシテハ、其愛情ハドウシテモ同一デナケレバナラヌ道理デアアル、夫アル女子ガ妻タル所ノ貞節ヲ破リ、他ノ男子ニ情ヲ通ズルコトヲ以テ不都合トシタナラバ、妻アル男子ガ他ノ女子ニ猥ニ通ズレバ、矢張ソレモ不都合ト云フコトハ、本員ノ申スマデモゴザイマセウデアリマス、然ルニ世人ハ往々斯ノ如キコトヲ云フ、本員等ノ說ヲ非難シテ申シマスルノニ、男子ノ不都合ナ所爲ヲ爲スハ、獨リ我日本ノミナラズ、大ニ歐米各國ニ於テモ我日本ニ劣ラザル所ノ男子ガ、醜行ヲ爲ス者ガ、其實例ガ尠カラント云フコトヲ申シマス、斯ノ如キコトハ既ニ外國デアスノ如キ醜業ガアルカラシテ、日本ニ於テモ亦之ヲ以テ差支ナイト云フコトハ、本員ハ妄言モ甚シキデアアルト思フ、外國ハ外國デアス、日本ハ日本デアゴザイマセウ、然ルニ外國ノ例ヲ以テ斯ノ如キコトヲ申シマスルケレドモ、即チ是ハ唯自分ノ——外國ノ或例ヲ引イテ、自分ノ風ヲ掩ハントスル說ニ過ギナイト、本員ハ思フ、如何トナレバ本員ガ申サズトモ、諸君ハ御承知デアゴザイマセウ、即チ一夫多妻杯ト云フコトハ、非常ニ外國デアハ刺戟ヲ加ヘ、攻撃ヲ加ヘ、殆ド社會ニ容レラレント云フ打撃ヲ與ヘルデアゴザイマセウ、日本ニ於テハ果シテ社會ノ制裁ガ歐米各國ダケノ力ガアリマスカ、實ニ吾々ハ此點ニ於テ歐米各國ニ對シテ遜色ナキ能ハズト本員杯ハ考ヘマス、斯ノ如ク論ジマスレバ、實ニ此一夫多妻ノ如キ醜行ハ、明治ノ新天地ニ於テ一日モ存スベカラザルコト、深ク本員ハ信ジマシテ、此改正案ヲ提出シタ所以デアゴザイマス、何卒滿場ノ諸君、此案ヲ委員ニ付託セラレテ、十分深思熟議、以テ大ニ斯ノ如キ弊害ヲ消除シテ、大ニ一國ノ美風ヲ養成セラレントヲ希望シマス

○議長(片岡健吉君) 恒松隆慶君ヨリ委員付託ニナツテ、十分ニ調査スルヤウニ致シタイ

○議長(片岡健吉君) 恒松隆慶君ヨリ委員付託ノ動議ガ出マシタガ、是ニ御

異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名スルコトニ致シテ、御異議ハアリマセヌカ

(一) 異議ナシ(聲起ル)

(二) 異議ナシ(聲起ル)

○議長(片岡健吉君) 異議ガナケレバ其通致シマス、次ハ議事日程ノ第五、酒造稅法中改正法律案第一讀會議案ノ朗讀ヲ省略シマス、大塚常次郎君

第五 酒造稅法中改正法律案(大塚常次郎外五名提出)

第一讀會

酒造稅法中改正法律案

第四條第一項第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

第三種 再製酒 一石 金十三圓

此ノ法律ニ於テ再製酒ト稱スルハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 酒精ト酒精ニ非サル物品トヲ混和シテ酒精トナシタルモノ

二 酒精ト酒精トヲ混和シ又ハ酒精ト酒精ト及他ノ物品トヲ混和シテ酒精トナシタルモノ

三 一種ノ酒精ト酒精若ハ酒精ニ非サル物品トヲ混和シテ別種ノ酒精トナシタルモノ

四 二種以上ノ酒精ヲ混和シ又ハ二種以上ノ酒精ト酒精若ハ酒精ニ非サル物品トヲ混和シテ酒精トナシタルモノ

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

攝氏驗温器十五度ノトキニ於テ原容量百分中酒精ノ容量第一種ニ在テ二十第二種ニ在テハ燒酎ハ六十五酒精ハ九十ヲ超過スルトキハ百分ノ一ヲ増ス每ニ前項ノ金額ニ一圓ヲ加フ第三種ニ在テハ其ノ原料用酒ハ六十五ヲ超過スルコトヲ得ヌ

第四十條 酒精ヲ製造スル者ハ府縣若ハ稅務署管内ヲ一區域トシテ酒造組合ヲ設クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ本條ノ區域ニ據リ難キトキハ數稅務署管内ヲ併セテ一區域トナスコトヲ得

組合ヲ設ケス又ハ組合ニ加入セスシテ酒精ヲ製造スルモノハ二圓以上二十圓以下ノ科料ニ處ス

組合ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

此ノ法律ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行シ同日以後製造ニ係ル酒精ニハ其ノ製造著手ノ時期ニ拘ラス此ノ法律ヲ適用ス

明治三十一年法律第二十五號混成酒稅法ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(大塚常次郎君演壇ニ登ル)

○大塚常次郎君(二百五十一番) 私ハ本案提出ノ理由ヲ簡短ニ申述ベヤウト思ヒマス、現行ノ酒造稅法ハ私ガ申スマデモナク、第十三議會ニ於キマシテ増稅ノ結果ニ基イテ改正セラレタモノデゴザイマス、爾來此法律ヲ施行セラ、ニ方ツテ、實際不適當ナ點ガアリマス、又國庫ノ收入ニ於キマシテモ不利益ト認メマシタガ故ニ、諸君ノ御贊成ヲ得テ、其不備ノ點ヲ改正シタイト云フノデアリマス、今提出者タル所ノ吾々同志ノ改正セントスル趣意ハ、第一ガ混成酒稅法ヲ廢シテ、酒造稅法中ニ組入レタイト云フコト、第二酒精度數ノ改正ヲシタイ、第三ガ酒造組合ノ實行ノコト、以上三箇條デゴザイマス、

第一此混成酒ノ製造ト云フモノハ、極デ單純デゴザイマシテ、僅カノ原料サヘアレバ咄嗟ニ之ヲ製造シテ、咄嗟ニ賣捌ノ出來ルモノデアリマス、故ニ從テ稅稅ヲ圖ルコトモ容易ナノデアリマス、殊ニ混成酒ノ製造者ハ、酒造營業者ト違ツテ保證物ヲ出サナイ、ツレ故ニ此營業者ハ其人ニ依リマシテハ、納期前ニ其品物ヲ賣拂ツテ殊更ニ怠納處分ヲ受ケル者ガアル、其結果ハ單リ國庫ノ損失ノミナラズ、誠實ナル所ノ營業者ニ向ヒマシテ、非常ナル妨害ヲ與ヘルノデアリマス、故ニ本員等ハ矢張此混成酒ノ製造者ト雖モ、酒造稅法ノ保證物ヲ納メルヲ以テ正當ナリト認メル、第二酒精ノ度數ノ改正デアリマスガ、現行法ニ依リマシレバ、我國ニ於テ製造スル蒸溜酒ハ、總テ原容量百分中酒精ヲ五十分定限シテ居ル、ツレ故ニ五十分以上ハ一度ヲ増ス毎ニ一圓宛ノ稅金ヲ課セラル、ノデアリマス、然ルニ外國ヨリ輸入スル蒸溜酒ハ原容量百分中酒精六十五ヲ以テ定限シテアル、内外品ハ其度數ニ於テ十五稅金ニ於テ十五圓ノ差ガアルノデアリマス、所謂内國品ヲ排斥シテ外國品ヲ保護スルト云フ結果ニナルノデアリマス、ツレ故ニ本員等ハ内外品ノ權衡ヲ得ルタメニ、内國製ノ酒精ノ度數モ矢張六十五ヲ以テ適當ナリトスルノデアリマス、既ニ此酒精ノ度數ヲ改正スル以上ニハ、此蒸溜酒ノ方ヲ改正スル以上ニハ、日本ニ於テ製造スル所ノ酒精ノ度數モ矢張九十ト改正スルノガ、前後相關聯シテ相當ナリト認メルノデアリマス、第三酒造組合實行ノコト、酒造營業者ガ組合ヲ設ケルコトハ、昨年即チ第十三議會ノトキニ決議ニナツタ、然ルニ組合ノ區域甚ダ是ハ實地ニ出來ナイ場合ガアル、現行法ニ依レバ「府縣若ハ稅務所管内ヲ一區域トシ云々」一府縣ニ於テ差支ノアル場合——一稅務署管内ノ一區域ト致シマスレバ、從來慣行ノアル組合モ二稅務署以上ニナリマシタトキハ、此法律ニ依ルト勢分離シナケレバナラヌコトニナル、一稅務署ノミノ營業者ヲ以テ組織セントスルガ、少數ニシテ差支ノアル地方モアラウ、要スルニ本案ノ四十條ニ但書ヲ加ヘテ、此不備ノ點ヲ補ヒタイ、即チ「但シ土地ノ狀況ニ依リ本條ノ區域ニ據リ難キトキハ數稅務署管内ヲ併セテ一區域トナスコトヲ得」斯ウ改正ヲシテ、此缺點ヲ補ハウト云フ考デゴザイマス、而シテ最モ本條ノ缺點ト云ヒマスルノハ「組合ヲ設クヘシ」ト規定シアリナガラ此違犯者ノ制裁ガナイノデアリマス、ツレ故ニ此營業者ノ中デ不正ノアル者ハ加入スルコトヲ拒絶スルノデアリマス、是ハ吾々ガ目撃シテ居

ル、此場合ニハ如何トモ仕方ガナイ、又制裁ガナイカラ、組合ニ加入シナイモノヲドウシテモ加入シロト無理ニ壓附ケルコトガ出來ナイ、ツレ故ニ之ニ尙ホ加ヘルノデアリマス「組合ヲ設ケス又ハ組合ニ加入セスシテ酒類ヲ製造スルモノハ二圓以上二十圓以下ノ料科ニ處ス」ト云フコトヲ加ヘタイノデ、此箇條ハ此酒造稅法中ニアリマス、末條ニ對照致シマシテ、彼此參酌ヲ加ヘテ致シタノデゴザイマス、本案ハ種々複雜致シマシテ、到底本員ガ此場ニ於テ十分ナ説明ハ難イノデアリマスルカラ、宜シク調査委員ヲ設ケラレテ、完全ナル御調査ノアランコトヲ希望致シマス、聊本案提出ノ趣意ヲ……

〔政府委員大藏省主稅局長目賀田種太郎君演壇ニ登ル〕
 ○政府委員(目賀田種太郎君) 現今ノ酒造稅法ハ、御承知ノ通増稅ノ外一般ニ稅法ノ整理ヲ圖ツテアリマス、今提出ノ御案ニ依リマスルト、大分仕組ニ於テ變ツテ參ル譯デ、無論此案ノ或ル點ニ於テハ同意ヲ致シテ宜イコトモアリマスルケレドモ、大體ノ主義ト仕組ニ於テハ、甚ダ是ハ差支ヘル案デアアル、故ニ此點ニ就イテハ斷ジテ政府ハ不同意ヲ述ベテ置キマス、先ツ混成酒稅法ト云フモノハ、立案者ノ御趣意ニ依ルト云フト、唯ダ清酒ノ保護ノタメノ法律ノ如クナツテ居リマスルガ、サウデハナイ、混成酒稅法ハ他ノ混成酒モ這入ツテ居ル、清酒ノミデハナイ、他ノモノモ這入ツテ居ル、葡萄酒ノヤウナモノモ這入ツテ居ル、現今ニ於テモ、將來ニ於テモ、是ハ西洋風ノ酒ヲ包含シテ居ル、サウ云フ風ニ既ニ此混成酒稅法ノ支配スル種類ニ於テ違ツテ居リマスルカラ、是ハ別法ニナツテ居ル譯デアリマス、但其中保證物ノ如キハ、是ハ又或ハ法律ノ御設定ノ模樣ニ依リマシテ、至極然ルベキコトデモアラウト思ヒマスケレドモ、其他ノコトハ之ヲ同一ノ法律ノ中ニ入レルト云フコトハ、餘程困難ヲ來ス譯デ、ツレノミナラズ執行上ニ於テモ大ニ不取締ヲ來ス譯デアリマス、故ニ贊成致シマセヌ、ツレカラ又今ノ時ニナリマシテハ、凡ソ内國ノ稅法ハ關稅法ト權衡ヲ保ツテ行カネバナラナイ、現行法ハ即チ海關稅法ト權衡ヲ保ツテ居ル、海關課稅ニ於ケル酒精ノ稅率モ、ツレカラ内國稅法ニ於ケル酒精ノ稅率モ、其負擔ニ於テハ殆ド相均シクナツテ居ル、唯今ノ立案者ハ均シカラズト、仰シヤイマスガ、ツレハ御誤デアアル、全ク錯誤デアアル、(大塚常次郎君「ノウ」ト呼フ)錯誤デス、ト云フハ提出者ハ酒類ヲ以テ直チニ御比較ニナル、ツレハ海關稅法ノ十五類ニアルモノヲ以テ御比較ニナル、其物ガ違ツテ居ル、酒精ナルモノハ海關稅法ニ於テ十五類デハナイノデアアル、サウ云フ間違ノ比較ハ困ルデス、サウ云フヤウナ譯デアリマシテ、斯ノ如クスルト云フト、酒精ノ濫造ヲ促シテ、却ツテ御目的ニ反スルニ至ルダラウト思フ、又此組合杯ノコトニ就キマシテハ、是ハ又違ヒ御協議ヲ致シマシタナラバ、御話ノ纏マルコト、思ヒマス、サリナガラ大體ニ於テハ唯今速ブルヤウナ譯デアリマスルカラ、本案ニハ甚ダ同意ヲ致シ兼ネマス

○恆松隆慶君(二百四十三番) 本案ハ政府ヲ反對ノ意見モゴザイマシタガ、併ナガラ或部分ニハ同意シテモ宜イト云フヤウナコトデ、免ニ角是ハ即決スル

正ノアル者ハ加入スルコトヲ拒絶スルノデアリマス、是ハ吾々ガ目撃シテ居

ル、此場合ニハ如何トモ仕方ガナイ、又制裁ガナイカラ、組合ニ加入シナイモノヲドウシテモ加入シロト無理ニ壓附ケルコトガ出來ナイ、ツレ故ニ之ニ尙ホ加ヘルノデアリマス「組合ヲ設ケス又ハ組合ニ加入セスシテ酒類ヲ製造スルモノハ二圓以上二十圓以下ノ料科ニ處ス」ト云フコトヲ加ヘタイノデ、此箇條ハ此酒造稅法中ニアリマス、末條ニ對照致シマシテ、彼此參酌ヲ加ヘテ致シタノデゴザイマス、本案ハ種々複雜致シマシテ、到底本員ガ此場ニ於テ十分ナ説明ハ難イノデアリマスルカラ、宜シク調査委員ヲ設ケラレテ、完全ナル御調査ノアランコトヲ希望致シマス、聊本案提出ノ趣意ヲ……

譯ニモ行キマスマイカラ、委員ニ付託シテ十分調査セシムルガ宜シカラウト
思ヒマス、ドウカ九名ノ委員ヲ議長ガ指名セラレテ……

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 九名ノ委員ヲ議長ガ指名シテ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、議事日程ノ第六、裁
判所設立及管轄區域變更ニ關スル法律案第一讀會議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第六 裁判所設立及管轄區域變更ニ關スル法律案 第一讀會
(西原清東君外二名提出)

第一條 裁判所設立及管轄區域變更ニ關スル法律案

第一條 札幌地方裁判所管内石狩國上川郡旭川村ニ旭川區裁判所ヲ置キ同
地方裁判所管内膽振國室蘭郡本町ニ室蘭區裁判所ヲ置ク

第二條 根室地方裁判所管内北見國網走郡北見町ニ網走區裁判所ヲ置キ同
地方裁判所管内十勝國河西郡下帶廣村ニ帶廣區裁判所ヲ置ク

第三條 新置區裁判所ノ開廳期日ハ司法大臣之ヲ定ム但シ新置區裁判所ノ
管轄ニ屬スヘキ事件ハ其ノ開廳迄舊管轄區裁判所ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第四條 裁判所位置及管轄區域表中札幌、根室兩地方裁判所管内ニ於ケル
區裁判所管轄中左表ノ通改定ス

函館		札幌		旭川		石狩		千歳		岩見澤		市來知		空知		月形		樺戸		夕張		札幌區		札樺區		厚田區		石狩區		
岩内	後志	室蘭	天鹽	天鹽	石狩	石狩	石狩	千歳	岩見澤	市來知	空知	月形	樺戸	夕張	札幌區	札樺區	厚田區	石狩區												
膽振	岩内郡ノ内	膽振	室蘭郡ノ内	室蘭郡	天鹽郡	天鹽郡	石狩郡ノ内	石狩郡ノ内	岩見澤村	市來知村	空知郡ノ内	月形村	樺戸郡ノ内	夕張郡	札幌區	札樺區	厚田區	石狩區												
俱知安村	古宇郡	虻田郡ノ内	虻田郡ノ内	有珠郡	留萌郡	留萌郡	上川郡ノ内	上川郡ノ内	栗澤村	幌內村	幌內村	沼貝村	幌內村	幌內村	幌內村	幌內村	幌內村	幌內村												
				虻田郡	虻田郡	虻田郡	新十津川村	新十津川村																						

| 根室 | | 網走 | | 釧路 | | 十勝 | | 釧路 | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 根室 | | |
| 千島 | 千島 | 北見 | 北見 | 釧路 | | |
| 國後郡 | 國後郡 | 網走郡 | 網走郡 | 釧路郡 | | |
| 花咲郡 | 花咲郡 | 釧路郡 | |
| 得撫郡 | 得撫郡 | 釧路郡 | |
| 新野郡 | 新野郡 | 釧路郡 | |
| 標津郡 | 標津郡 | 釧路郡 | |
| 占守郡 | 占守郡 | 釧路郡 |
| 擇捉郡 | 擇捉郡 | 釧路郡 |
| 紋別郡 | 紋別郡 | 釧路郡 |
| 足寄郡 | 足寄郡 | 釧路郡 |

(西原清東君演壇ニ登ル)

○西原清東君(二百五十二番) 諸君、北海道ニ四箇ノ區裁判所ヲ増設シ、從
テ其裁判管轄區域ヲ變更シヤウト云フノ法律案デアリマス、誠ニ小サイ問題
デアリマス、經常費ノ金額ニ致シマシテ、一万六千圓シカ要ラナイ問題デ
ザイマス、所ガ人民ノ私權ヲ保護スル機關ト致シマシテ、區裁判所程緊要ナ
モノガゴザイマセヌ、日本ニ於テ——イヤ、府縣ニ於テ三百餘ノ區裁判所ガ
アリマシテ、小縣ニテハ五六箇所、大縣ニテハ十二三箇所宛ノ區裁判所ヲ設
立シテアリマスガ、北海道ノ大ヲ以テシテ僅ニ十二箇所ノ裁判所シカ設立セ
ラレテナイノデゴザイマス、諸君、北海道ノ土地ノ廣サハ、四國ト九州トヲ
合セマシテ其ニ倍アリマシテ、七千方里ノ廣サ有ッテ居リマス、私ガ區裁
判所ヲ設ケタイト云フ場所ハ、膽振國ノ室蘭、石狩國ノ旭川、十勝國ノ帶廣、
北見國ノ網走、此四箇所デアリマス、室蘭ハ御承知ノ通北海道第一ノ港ノ
アル場所デゴザイマシテ、膽振國ノ一番盛大ナル都會デアアル、而シテ七郡ア
リマスル中デ、千歳郡ト云フ札幌ニ近イ所ノ郡ヲ舊來ノ通札幌區裁判所ノ管
轄ニ殘シテ置イテ、南方ノ六郡ハ悉ク室蘭區裁判所ノ管轄ニ歸セシメヤウト
云フノ意見デアリマス、而シテ石狩國ノ旭川ト申シマスルハ、御承知ノ通七
師團ヲ設置シ、將來ハ離宮ヲモ設ケラレントシテ、豫定セラレテ居ル北海道
ノ四通八達ノ場所デゴザイマシテ、將來ハ道廳モ彼地ニ移サウト云フ意
見有シテ居ル人多クアルト承ル程ノ樞要ナ場所デアアル、札幌ヲ距ルコ
ト三十里餘ノ遠方ニ在リマス、其大ナル旭川郡ト云フ一郡ノミヲ管轄シヤウ
ト云フノ意見デアリマス、而シテ十勝國ハ從來ハ釧路國ノ釧路ニ在ル區裁判
所ノ管轄ニ屬シテ居リマスルガ、其釧路ト十勝ノ帶廣ノ里程ハ三十三里カア
リマシテ、而シテ交通ハ極テ困難デアリマス、又此十勝ノ廣サハドレ程アル
カト云ヘバ、殆ド畿内五箇國ノ大サヨリモ、マダ大キクアリマス、故ニ此十
勝ノ帶廣ニ區裁判所ヲ設ケタイト致シマシタ所ガ、其各郡ヨリ帶廣ニ參リマ
スニ二十里三十里ノ遠キ場所ヨリ來ネバナラスト云フ譯ニナッテ居ル、遠キ場
所ヨリ來ネバナラスト云フ譯ニナッテ、ソレハ十勝全國カラ釧路ヘマデ訴ニ、
僅カノ區裁判所事件デ參ラナケレバナラスト云フコトハ、事實出來ナイコト
デアリマス、次ニ北見ノ網走ト申シマスルノハ、從來ガ根室ノ區裁判所ノ管
轄ニ屬シテ居リマス、諸君、北見ノ網走ヨリ根室マデハ七十里ノ里程ガアリ

マス、而モ十一月ヨリ翌年ノ四月ノ中頃ニ至リマスルマデ、海陸共ニ交通遮斷ヲセラレマス、斯様ナル不便ナク處デアリマスルニ依リテ、法律ノ文面上デハ管轄ニ屬シテ居ルガ、然レドモ事實ニ於テハ百圓以内ノ金額テ訴ニ出テ往クト云フ、其費用ハ却テ二百圓モ要ラウカト云フ事實デアリマス、此區裁判所ガ、先ツ有レドモ無キガ如シト云フ事實デアルト思フ、サウスルトドウ云フコトデアアルカト云フト、私權ノ保護ガ出來ナイ、信用貸借ガ出來ナイカラ金額ノ融通モ利カナイト云フ事實デアアル、今日ノ北海道ノ進歩ノ程度ニ於テ、即チ徵兵令モ布イテ居ル、所得稅法モ布イテ居ル、殆ド内地ト大差ノナイ責務ヲ負ハシテ置イテ、保護ノ行届カザルコト此ノ如シト云フコトハ、誠ニ遺憾デアゴザイマセヌカ、恐ラクハ諸君ノ中ニハ、十勝ニモ、北見ニモ、上川ニモ、室蘭ニモ、區裁判所ガナカクマド御聽キナスラバ驚カル、程ノコトデアラウカト思フ、其金額僅ニ——四ツノ區裁判所ヲ合セマシテ僅ニ一万六千圓デアリマス、併ナガラ廳會ヲ建築スルト云フヤウナ費用、或ハ必要ナル物品ヲ備附ケンナラヌト云フヤウナ費用ヲ合シマシテ、十萬圓餘リノ臨時費ガ要リマス、經常費ハ一万六千圓、ドウカ諸君ノ御賛成ヲ願ヒマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ
 ○板松隆慶君(百四十三番) 此改正案ハ頗ル實地ニ適當ノ案デアゴザイマスルガ、直ニ此處テ即決ト云フ譯ニハ往キマスマイカラ、免ニ角委員ニ託シテ、是ハ審査サセタイト思ヒマス、此委員ハ九名、議長ノ指名ヲ希望致シマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ
 (政府委員司法次官波多野敬直君演壇ニ登ル)

○政府委員(波多野敬直君) 區裁判所増設ノ必要ナルコトハ、政府モ提出者ト同感デアゴザイマス、實ハ北海道ニ五箇所、内地ニ二箇所、最モ急施ヲ要スル場所ヲ選ビマシテ本期ノ議會ニ提出スル積デアゴザイマシタガ、財政ノ都合ニ依リマシテ今日マデ此提出ヲ見合シテ居リマシタ、デ本案ハ北海道ノ四箇所ニ區裁判所ヲ設置スルト云フ案デアゴザイマシテ、其場所モ最モ適當ノ場所デアゴザイマスカラ、政府ハ喜ンデ賛成ヲ致シマス、併シ經費ノ都合ニ依リマシテ、三十三年度中ニハ四箇所トモ一時ニ開廳ヲスル運ビニハ至リ兼ネマスカモ分リマセヌカラ、此事ハ今ヨリ御斷ヲ申シテ置キマス

○星松三郎君(二百八十三番) 政府ガ同意デアルト云フナラバ、即決ノ方ガ却テ穩當デアラウト思フ、即決ヲ希望致シマス

〔委員付託〕ト呼フ者アリ
 ○議長(片岡健吉君) 委員付託説ガ出テ居リマスカラ、何ニセヨ採決致シマス、委員付託ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス
 起立者 多數
 ○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、本案ハ特別委員九名ヲ議長ガ指名致

シマシテ、御異議アリマセヌカ
 (異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)
 ○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ共通致シマス、次ハ議事日程ノ第七、田地價特別修正法律案第一讀會、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第七 田地價特別修正法律案(西村淳藏君外四名 第一讀會 提出)

第一條 兵庫縣有馬郡高平村田地價ヲ十一萬六千三百三十圓八十九錢トシ福岡縣八女郡星野村田地價ヲ三萬五千二百七十錢ト修正ス
 第二條 每筆ノ修正地價ハ明治三十三年三月一日ノ土地臺帳面地價ニ應シ按分シテ之ヲ定ム
 第三條 本法ニ依リ地價ヲ修正シタル土地ノ地租ハ明治三十三年分ヨリ修正地價ニ依リテ之ヲ徵收ス
 (西村淳藏君演壇ニ登ル)

○西村淳藏君(二百七十八番) 諸君、皆様御疲レテゴザイマスカラ、簡短中ノ最モ簡短ニ一言致シマシテ、提出ノ理由ヲ述べ、而シテ諸君ノ御賛成ヲ仰ギタイノデアアル、本案ハ兵庫縣有馬郡高平村ノ内田價ダケ——畑ハ含シテ居リマセヌ、田地價十二萬五千四百六圓二十九錢ヲ十一萬六千三百三十圓八十九錢トシ、福岡縣ノ内八女郡星野村ノ地價、是モ田デアゴザイマス、十一萬六千三百三十圓八十九錢トアリマスノヲ三萬五千二百七十錢……是ハテヨト數字ガ間違ヒマシテ何デアリマスガ、斯ウ修正致シタイト云フノデアリマス、全體明治三十一年ノ法律第三十一號ヲ以チマシテ、地價修正ヲ致シタル所ノ要素ハ、收穫ノ見積石代並ニ利率等ヲ斟酌致シマシテ、又各郡一定ノ率ニ依ッテ之ヲ行ツタノデアアル、而シテ此低減致シタルモノデアゴザイマスルガ故ニ、地租改正ノ當時ニ屬シテ居ツタ所ノ郡ノ率ニ依ラネバナラヌト云フコトハ無論デアアルノデアアル、然ルニ右述ベマシタ所ノ二箇村ハ、即チ其他價修正ノ當時ニ屬シテ居ル所ノ郡ノ率ニ依ッテ修正セラレタト云フ結果ニナツテ居ルノデアゴザイマス、此高平村ハ明治二十九年ノ四月、川邊郡ト云フ郡ヨリ有馬郡ニ編入セラレタ、又福岡縣ノ星野村ハ明治二十九年七月ノ七日ニ浮羽郡ヨリ八女郡ニ編入セラレタ、然ルニ右ノ法律ノ第三十一號ノ支配ニ依ッテ修正セラレタル所ノ地價ト云フモノハ、地價修正ノ當時ニ屬シテ居ツタル、現ニ屬シテ居ツタル郡ニ依ッテ致シタルモノデアアル、甚シキ不公平ヲ來シテ居ルノデアアル、ツレデ今一例ヲ舉ゲテ申シマスレバ、此高平村ノ如キハ非常ナル其不公平ガ來テ居ルノデアゴザイマス、デ川邊郡ハ地價ニ對シテ一割八分五厘ノ減デアアル、即チ舊地價百圓ガ八十一圓五十錢ト爲ツテ居ルノデアアル、然ルニ有馬郡ノ方ハ一割二分デアゴザイマシテ、舊地價百圓ニ對シテハ八十八圓ト爲ツテ居ル、是ダケノ差ガ出來テ居ル、之ニ依ッテ算盤ヲ立ツテ見マスルト、高平村ハ年々歳々而モ永久ニ三百有餘圓ノ、所以ナキ税金ヲ納メナケレバナ

ラヌト云フコトニナル、又福岡縣ノ星野村ニ於キマシテモ粗、同様ナルコトデア
アル、テ要スルニ地價修正ノ當時ニ餘リ注意ノ十分ナラザリシ所ノ結果デア
ル、テ本員ハ是等ノコトハ取締ノ上、實際ノ上ニ於テモ決シテ座視スベキモノ
デナイト考ヘルガ故ニ、此案ヲ提出シテ、即チ特別ニ其田價ダケニ對スル所ノ
修正ヲシタイト云フノデゴザイマス、即チ高平村ハ元ト屬シテ居ル所ノ
川邊郡、又星野村ノ方ハ浮羽郡ノ率ニ據ル、即チ地租改正ノ當時ニ屬シテ
居ル所ノ郡ノ率ニ據ルヲ爲シタイト云フノデス、御分リニナラシムラ宜シク御
協賛ヲ仰ギタイ

〔政府委員大藏省主稅局長目賀田種太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(目賀田種太郎君) 三十一年ノ特別地價修正法ノ大體ニ於キマシ
テハ、獨リ地租改正ノトキノ成績ニ依ツテ譯デナイトノデ、其後ニ地價修正ヲ
斟酌シテ、更ニ修正ニナラシムラ譯デアル、ソレ故ニ此案ノ場所ノ如キモ、或ル
所ニ於テハ既ニ二十二年ヨリ地價ノ修正ヲ受ケテ居ル、ソレデアアルカラ過般
御協賛ヲ得テ法律ト爲ツテ居ルモノハ、地租改正以來ノ成績ニ附イテ修正セ
ラレテ居ル、而モ右ノ如キハ郡ノ區域ニ依ツテ出來テ居ル、然ルニ此處ヘ持
テ參ツテ、更ニ村マデ立入ルト云フコトニナルト云フト、大體ノ仕組ニ於テ
現今ノ地價修正法トハ反スル譯デアル、諸君、私ハ斯ノ如キコトハ出來ヌコ
ト、云フノ考デアアル、故ニ巴ムヲ得ズ政府ニ於テハ此案ニ附イテハ不同意ヲ
唱ヘマス

〔石田貫之助君演壇ニ登ル〕

○石田貫之助君(二百九十六番) 唯今西村君ガ辯ゼラレマシテゴザイマス
ガ、特別地價修正ノ案デゴザイマス、即チ本員モ提出者ノ一人デアリマス、唯
今政府委員カラ是ハ反對デアルト云フコトデゴザイマシタカラ、巴ムヲ得ズ
茲ニ一言ヲ致スノデアアル、實ニ是ハ漸ク高平村ノ地租ヲ減ズルコト三百有餘
圓、又星野村ノ地租ヲ減ズルコト百有餘圓程ノ金額ヲ、國家ノ經濟上ニ關スル
マデノコトデモゴザイマセヌ、然レドモ之ヲ一村ニ永遠ニ取ツテ參リマスル
ト云フト、決シテ少キノモノデハナイノデアアル、而モ此事柄ハ畢竟一昨年ノ地
租改正ノ當時ニ於テ、當局者ノ不注意ヨリ生ジタル不幸ト謂ハザルヲ得ヌ
デゴザイマス、テ唯今目賀田君ガ何トカ云ウテ理由ヲ言ハレマシタケレド
モ、私ハ其理由ノデヤ、精神ガ分ラヌノデアアル、ナゼナレバデス、此一昨年
ノ修正ト云ヒマスルモノハ、一郡一定ノ率ニ據ツテ修正ヲ致シタト云フコト
ハ、當局者モ皆ト云フコトハ出來ヌノデゴザイマセウ、不同意ト云フコトハ出
來ヌノデゴザイマセウ、例ヘテ云ヘバ河邊郡ハ、即チ一割八分ナラバ一割八
分、一割五分ナラバ一割五分ト云フモノヲ、每筆按分シテ一定ニ減額シタト
云フコトハ即チ言ハレヌノデ、之ニ不同意ト云フコトハ言ハレヌノデゴザイ
マセウ、サレバ此高平村ガ、即チ二十九年ヨリ有馬郡ト云フ郡ニ編入組替ガ出
來テ居ラナカッタラドウスル、河邊郡ニ居ラタラドウスル、即チ一割八分若
クハ一割八分五厘ノ稅率ヲ以テ減額ヲシテ居ルデハゴザイマセヌカ、此郡ヲ

別ニスルコトガ出來マスカ、其一割八分五厘ナルモノハ明治二十九年九月編
入ノ結果トシテ、例ヘバ一割ト云フ制限ヲ以テ修正ヲ致スト云フコトニナ
テ居ル、ソレデ此事ニ附キマシテハ今言ヒマスル通、誠ニ僅々タルコトデア
アリマスケレドモ、斯様ニ改正ノトキノ粗漏ヨリ生ジテ、人民ニ不幸ヲ被ラ
セルト云フコトニナルノデ、私ハ昨年夏頃カラ大藏省ニ於テ一二取調ベタノ
デアリマス、實ハ其改正ニ於テモ全ク忘レテ居ラタノデハナイト、斯ウ云フ
ノデ——忘レテ居ラタノデハナイ、固ヨリ其事アルガ故ニ此高平村ト云フモ
ノハ別記シテアルノデ、十有餘村ノ外ニ別記シテアルノデ、是ハ有馬郡ト平
均シタト云フノデ、其平均ノ致方ト云フモノハ、一ツアル處ト十アルモノ
トヲ一々平均致シタノデアアル、全ク忘レテ居ラナカッタト云フダケノコトハ
告ゲテ居ルガ、所謂マルデ儀式ノ法ニモ何モ適ハヌコトガ致シテアルノデゴ
ザイマス、一ツノモノヲ保持ツテ來テ、十二割リマシテ此平均ヲ取リマスレ
バ、此物ノ實際ノ平均ガ取レサウナコトハナイノデゴザイマス、是ハ當局
者モ否ト云フコトハ言ヘナイ、大藏省ガ言ハレタガ其通デアアル、斯様ノ事柄
ニナラシムラニ政府ハ不同意デアアル、左様ナコトハ出來得ベカラザルモノ
デアルト云フヤウナコトハ荷モ責任ヲ負フ當局者ガ言ハレナイコトデアアル、
テ私ハ尙ホ一言云フ、此法律案ノ議事ニ附イテ近頃政府委員ガ、政府ハ不
同意ヲ唱ヘルノデアリマス——不同意デアリマスト云フヤウナコトヲ此演壇ニ
確言スルコトガアル、是ハドウ云フ意味カ分ラヌノデアアル、畢竟此演壇デ政
府委員カ若ハ政府ノ大臣ガ、同意不同意トカ云フヤウナ事柄ヲ明言スルコト
ハ、憲法ノ正條ニ基キテ明言ヲ致サナケレバナラヌノデアアル、憲法ノ正條ニ
據ツテ見レバ、法律ノ制定ト云フモノハ上下兩院ノ可決シタモノハ、天皇
ガ御裁可ヲナサルノデアアル、ソレマデニ政府若クハ政府委員ガ不同意ヲ表ス
ルノデアアル、妙ナル私ハ習慣ニナラタト思フ、ソレハ内實政府部内ニ至ツテ、
手續ニ至リマシテハ不同意ヲ上奏スルコトハアルカモ知レマセヌ、ケレド
モ唯憲法ノ六十七條ニ據ツテ、既定ノ歳出若クハ國家ガ、即チ義務ニ關ハリ
マスル所ノモノヲ此議場デ削減シ、若クハ全ク脱スルト云フヤウナコトガア
リマスレバ、是ハ即チ政府ノ同意ヲスルセナイト云フ論ニナツテ來ルノデ、
其六十七條ニ關ハル所ノ費用ニ至リマシテハ、即チ政府ガ同意セネバ成立シ
ナイト云フコトニナラテ來ル、法律案ノ制定ニ至ツテ、マダ下院ノ可決ニ至
ラズ、上院ノ可決ニ至ラザルトキニ於テ、政府委員ガ即チ不同意ヲ表スル杯ト
云フヤウナコトハ、甚ダ穩當デナイト考ヘル、唯政府委員ハ其事實ニ於テ意
見ヲ違ヘ、其事實ニ依ツテ異ナルコトガアルナラバ、之ヲ論辯スルノハ可ナ
リ、何カ不同意權不認可權ヲ持ツテ居ルガ如キノ語氣ヲ以テ、之ニ反對セ
ル、ト云フコトハ、此問題ニ拘ラズ私ハ常ニ不穩當ノ言論ヲ爲スト考ヘテ居
ル、而シテ今ノ問題ノ如キハ、先刻ドウトカ斯ウトカ言ハレタケレドモ、其
趣意ガ分ラヌ、ドウ云フコトデアラッタカ分ラヌ、後トテ速記録デモ見タラ分
カ知レマセヌガ、私ノ言フ所ノ理論ニ向ツテ反對デナイトデアアル、左様ナコト

ハ所謂不都合ノ結果ニナツテ居ルノデ、其不都合ノ結果ニナツテ居ルト云フノハ、即チ調査ガ精密デナイ結果デアアル、調査疎漏ノ結果ヨリ人民ニ不幸ノ税ヲ課シテ、「政府ハ不同意デアリマス」何ゾ左様ナコトヲ、苟モ當局者タル者ガ言フベキ事柄デナイト私ハ思フ、此他ニ於キマシテモ私ノ調ベマシタ所ニ於キマシテハ、今ノヤウナ種類ガ十有餘所モアルノデゴザイマス、然レドモ是ハ極ク僅々タル金額デアツテ、縦シ之ヲ修正致シマシタ所ガ、地價臺帳ヲ修正スル費用ニモ償フヤ如何ト云フ位ノ所デゴザイマスカラ、決シテ議論ハサテ措キ、利害ノ關係ヲ及ササル所ニ至ツテ、法律ノ修正ヲ爲シ法律ノ改正ヲ致スト云フヤウナコトハ必要デナイ、先ツ全國中ニ於テ著シキ不公平粗漏ヨリ以テ不幸ヲ被ラシテ居ルノハ、該二箇村ト私ハ認メマス、故ニ提出致シタイノデゴザイマス、其他ニ就キマシテ同様ナ町村ガアリマシタラバ、是ハ修正スルノハ誠ニ至當ナコト、考ヘマス、茲ニ一言致シマス

○恆松隆慶君(百四十三番) 私ハ之ヲ委員ニ付託シテ十分ニ調査シタイと思ヒマスカラ……

〔工藤行幹君演壇ニ登ル〕

○工藤行幹君(二百七十九番) 御退屈ノ所ニ甚ダ相濟マヌガ、實ハ私ハ此案ノ如キハ一笑ニ付シテ、斯ウ云フコトハイクベキモノデヤナイト思ウテ居タノデアリマス、然ルニ提出者ハ二人マデモ御登壇ニナツテ、至極尤ラシイ御演説ヲ爲サル、或ハ又之ヲ委員ニ付託スル杯ト云フヤウナコトガゴザイマスルノハ、大ニ私ガ奇々怪々ニ堪エヌノデゴザイマス、尤モ此案ノ如キハ地租金ガ三百圓トカ、或ハ二百圓トカ云フ誠ニ少數ナモノデゴザイマスカラシテ、何レニナツテモ大體ニ關係ハナイカラ、ドウナツテモ宜イヤウナモノダケレドモ、併シ立法部トシテ斯ウ云フコトヲ始終議スルヤウナコトニナツテ、之ヲ齒牙ニ懸クルコトハ、私ハ性質上ニ於テ甚ダ不安心ヲ感ズル者デゴザイマス、何ゼナレバ諸君、此地價ノ修正論ト云フモノハ、第一期ノ議會以來容易ナラザル問題デアツタノデゴザイマス、何ゼサウカト云ヘバ、實ニ此明治ノ初年ニ於テ未ダ物ニ不慣ナトキニ於テ、而モ日本數百年來ノ慣習ヲ破ツテ地租改正ヲシタモノデゴザイマスカラシテ、是ハ到底多少ノ不平均ガアルト云フコトハ、即チ掩フベカラザルコトデアアルノデアアル、故ニ之ヲ修正セントスルコトハ實ニ容易ナ業デナイ、飽クマデ之ヲ修正セントスルナラバ或ハ一郡一村若クハ一筆ニ遡ツテ、其當否ヲ調べ上之ヲ修正シナケレバナラヌノデアアルノニ、其後段々議事ノ進行ニ依ツテ、大藏省ハ其責任ヲ持ツテ政府ハ責任ヲ持ツテ是々ノ金額ヲ以テ此度修正ヲスルナラバ、最早後トニ不公平ガナイト云フコトヲ斷言セラレタノデアアル、故ニ吾々ハ何レノ村ガ何程減ズルトカ、何レノ郡ガ何程減ズルト云フコトデナクヤルト云フコトハ、其當時不贊成デアツタノデアアルガ、併シ議場ノ多數ガサウナツタ以上ハ、今更ソレヲ言フデアアリマセヌガ、既ニ總體ノ額ニ於テ幾百萬圓ト云フ地租ヲ減ズル、地價ニシテ見ルト幾千萬圓ト云フモノヲ減ズル、ソレト云フモノ

ハ唯郡ノ大體ニ於テ、是ハ是ダケサヘ減ズレバ宜シイト云フコトニナツテ、此議場ガ決議シタノデ、敢テ一村一筆、或ハ一郡ノ原簿ヲ誰モ見タモノデヤナイノデゴザイマス、然ラバ政府ハ飽クマデ其豫期ノ金額ヲ以テヤツタ以上ハ、最早公平ニナツタト云フコトヲ吾々ハ認メテ居ルノデアアル、然ルニ今段段提出者ノ御意見ヲ承ルト云フト、其執行ノ上ニ就イテ誤ガアツタ、メ斯ノ如キ不公平ニブツカツタト云フコトデアアル、然ラバ此事情カラ見ルトキニハ、矢張り政府ノ豫期シタ所ノ金ヲ以テ當然シタモノデアアルカラ、一方ニ酷ニ往タモノガアレバ、一方ニ寬ニ往タモノガアルニ相違ナイト云フコトヲ認メル、詰リサウスレバ當局者ノヤリ方ガ惡ルイタメニ、傍ニ不公平ガアツタト云フ苦情ニ外ナラヌノデアアル、是ハ提出者ノ言ハレル通、或ハ多少サウ云フコトガアルカモ知ラナイケレドモ、抑々諸君、地價ヲ修正シテ永年ノ間之ヲ一定不變ニシテ置クト云フノハ、我が國ノ地租ヲ取ル大體ノ基本デアアルノデゴザイマス、ソレヲ數年掛ツテ地價修正ト云フコトヲ漸ク昨年ニ於テヤツタカト思ヘバ、又一方カラ僅ナ村ノモノヲ擲出シテ、此處ガ不公平ダ此處ガ不公平デアルト云ツテ、其時々地價ヲ修正シタナラバ、ドウ云フ結果ニナリマスルカ、何ヲ以テ此地租ヲ確實ナル稅源トシテヤルコトハ出來ナイト私ハ思フ、斯ノ如キ少額ノ不公平ハ澤山アラダラウト思ツテ居リマス、村ト村ト比較スレバ必ズ不公平ガアルダラウ、郡ト郡ト比較シテ見タナラバ必ズ不公平ガアルダラウ、況ヤ私ニ言ハセタナラバ、例ヘバ東北ノ外レト九州ノ外レト、斯ウ起ツタトキ、クツ附キ合シテ必ズ不公平ガアルニ相違ナイト思フノデゴザイマス、殊ニ地價ノ定メ方ト云フモノハ元々一筆デヤラナケレバナラヌノデアアル、一村ノ大體ヲ以テ高イノ安イノ、或ハ一郡ノ大體ヲ以テ高イノ安イノト云フコトハ、最モ其當ヲ得ナイノデアアル、實際ヤルト云フ譯ナラバ何處マデモ各一筆、各人ノ收穫ニ附イテ此收穫ノアル米價ナリ計ツテヤラナケレバナラヌノガ當然ナノデアリマス、然レドモ大體ニ於テ既ニ一遍地價修正ヲシタ以上ハ、斯ク區々タルコトヲ此議場テ取上ゲテヤルト云フコトハ、殆ド底止スル所ガナイ、又地價ヲ定メタ前回ノ精神ト云フモノニモ反スルコト、思ヒマス、故ニ私ハ誠ニ少タル金額デアアルケレドモ、或ル地方ノ區々タル苦情ヲ以テ、此地價ノ大體ヲ動スコトデアツテハ、地租ニ變動ヲ來シテ誠ニ不安心ヲ被ラシメナケレバナラヌ、若シ此例ヲ一度開イタ時ニハ、此金ハ僅デゴザイマスガ、天下續々トシテ起ルダラウト思ヒマスルニ付イテ、先ヅ既ニ一旦地價ヲ修正シタ以上ハ、是カラ五年ナリ十年ナリ經ツテ、又大ニ改正ヲシナケレバナラヌ場合ガアルカハ率ザ知ラナイケレドモ、朝ニ變ヘ夕ニ變ヘルト云フヤウナコトハ、最モ地租ニ對スル租稅ノ取り方ニ不安心ヲ來スコトデアゴザイマスカラ、是等ノコトハ斷シテ否決セラル、コトヲ私ハ切ニ希望スルノデアリマス

○議長(片岡健吉君) 今委員付託ト云フ聲ハ聽エマシタケレドモ、贊成者ガナイト認テ居リマス

(賛成々々)ト呼フ者アリ
○議長(片岡健吉君) 賛成ガアレバ採決ヲ致シマス、委員付託ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數
○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名致シマシテ、御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、次ハ議事日程ノ第八、國事犯罪者家祿賞典祿處分法案、第一讀會ノ續特別委員長報告、關信之介君

第八 國事犯罪者家祿賞典祿處分法案
案(關信之介君外十二名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第一條 國事ニ關スル犯罪ノ爲家祿賞典祿ヲ沒收セラレ明治二十二年勅令第十二號ニ依リ大赦ヲ與ヘラレタル者及現ニ其ノ名家承繼人タル者ニ限リ其ノ沒收セラレタル當時ノ祿高ニ基キ明治九年太政官第八號布告第一條ノ率ニ據リタル金祿公債證書額ニ相當スル金額ヲ一時國庫ヨリ支出シテ之ヲ給與ス

第二條 第一條ニ依リ給與ヲ受ケムトスル者ハ大赦ヲ受ケタル證明書ヲ以テ地方廳ニ出願スヘシ
但シ本法施行ノ日ヨリ一箇年內ニ其ノ認定及證明ヲ求メス又ハ認定及證明ヲ受ケタル日ヨリ一箇月內ニ出願ヲナササル者ハ第一條ノ給與ヲ受ケルコトヲ得ス

(關信之介君演壇ニ登ル)

○關信之介君(二百二十四番) 諸君、私ハ是ヨリ國事犯罪者家祿賞典祿處分法案ニ關シマスル委員會ノ經過及結果ヲ御報道致シマス、本委員會ハ本月十六日ニ委員長理事ノ互選會ヲ開キマシテ、委員長ニハ私、理事ニハ佐久間國三郎君ガ當選致シマシタ、十八日ニ委員會ヲ開キマシテ、政府ヨリハ松尾臣善君ガ出席致サレマシテ、質疑討論始ト三時間ヲ費シマシテ、遂ニ委員會ニ於テハ全會一致ヲ以テ可決相成リマシタ次第デゴザイマス、而シテ本案ハ御承知ノ如ク、曩ニ第十議會ニ於テモ本院多數ノ賛成ヲ得テ可決致シマシタ、又第十三議會ニ於テモ同シ多數ニ依リテ可決シタモノデゴザイマス、然ルニ貴族院ニ於キマシテハ會期切迫ノタメ、遂ニ委員會ヲ終ヘテ——其審査ヲ終ラズシテ兩度マデ擱置シノ運命ニ接シタ次第デゴザイマス、斯ノ如キ問題デゴザイマスカラ、唯今ノ如キ御報告ヲ以テ終ルヤウナモノデゴザイマスケレドモ、委員會ニ於テハ政府委員ハ之ニ向ッテ全然反對ノ意ヲ表シマシタノデゴザイマス、故ニ委員會ノ經過ヲ此場合ニ諸君ニ御話スルノハ、決シテ蛇足ノ勞デナイト考ヘル、此本案ハ御承知ノ如ク明治二十二年勅令十二號ノ大赦

令ニ依リマシテ、明治初年度ニ於ケル國事ニ關スル罪ヲ犯シタ者ガ、此大赦ニ依ッテ復權ヲ爲シ、元士族タル者ハ士族ノ身分ヲ有シタノデゴザイマス、然ルニ單ニ族籍ノミ復權ヲ致シマシテ、其族ニ伴フ所ノ祿ト云フモノヲ復スルコトガ出來ナイノデアリマス、此事ニ就キマシテハ明治二十七年ノ法律二十號ヲ以テ、國事犯罪者家祿賞典祿處分法案ト云フモノガ出マシテ、明治三年九月十日ノ即チ藩政施行後ノ復權ニ向ッテハ祿ヲ與ヘラレタルデアリマス、然ルニ等シク大赦ノ恩典ニ浴シテ復權致シタ者ハ、明治三年九月十日ノ藩制施行ヲ分界トシテ、其後ノ處分ニ係ルモノハ復權ノ恩典ニ浴シ、其以前ノ處分ニ係ル者ハ復權ノ恩典ニ浴スルコトガ出來ナイト云フヤウナ、甚ダ不公平極マル所ノ結果ニナッタデアリマス、斯ノ如キハ決シテ大赦ノ恩典ヲ完タカラシムル所ノ御趣意ニモ反スルモノデゴザイマス、此故ニ右等ノ不公平ナカラシメンガタメニ、此法案ヲ提出致シマシタト云フコトヲ述ベマシタ所ガ、松尾政府委員ガ之ニ反對シテ曰ク、若シ提出者ノ意見ノ如ク明治三年藩政施行ト云フモノ、限界ヲ破ッテ、其先キマテ溯ラシムルコトニナッテハ、如何ナル程度マデ此事ガアルカ、如何ナル數、如何ナル法律ニ浴スル人員アルカ、如何ナル金員ヲ要スルカト云フコトハ、實ニ際限ガナイノデアアル、故ニ祿制ニ關スルコトハ政府ハ明治三年ノ藩政施行ヲ以テ限界トシテ、其以前ノモノハ決シテ責任ヲ負ハヌト云フヤウナコトヲ述ベラレマシタデゴザイマス、然レドモ此事ニ就キマシテハ、假ニ此法律ガ成立致シマシテ發布シマシタ所ガ、僅カ其人員ト云フモノハ千四百名バカリデアッテ、其金員ハ三十八萬圓餘ニ過ギナイノデゴザイマス、其事ハ提出者等ガ數年來ノ經驗ニ依ッテ取調ベマシタモノデゴザイマス、政府ハ之ニ反對致シマシテ、曩ニ法律五十號ノ時分ニハ僅ニ百九十六人シカナカッタノデアアル、然ルニ今ヤ二十六萬人ノ請願者ガ出來タノデアアル、ツレヲ以テモ推シテ知ルベシト云フヤウナ、誠ニ溘然タル所ノ議論ヲ以テ反對セラレ、之ヲ押シ切ルニ或ハ會津藩トカ、或ハ仙臺藩トカ云フヤウナコトヲ以テセラレマシタケレドモ、會津藩ヤ仙臺藩ニ於キマシテハ、此提出者ガ指摘致シマシタ所ノ四十名ノ外ハ斷ジテナイト云フコトヲ證スルコトガ出來ルノデアリマス、而シテ會津藩ニ於キマシテハ、ツレク會津藩ニ對シテハ處分ガ濟ンデ居ル、其他各部ニ於テ殘ラズ濟ンデ居ル、僅ニ提出者ガ取調ベタモノ、外ナイト云フコトヲ證スル所ノ立派ナ證據ガアル、其證據ハ何デアアルカト云フト、即チ此問題ニ就キマシテハ第二議會以來數多ノ復權ニ關スル出願者ハ、此件ニ就イテ出願ガゴザイマスルケレドモ、提出者ガ取調ベマシタヨリ外ニ出願者ノナカッタト云フコトハ、是マデノ貴衆兩院ノ請願委員會ノ歴史ニ於テ之ヲ證スルコトガ出來ルノデアアル、若シ政府ニシテ此外ニ斯ノ如キ類ガ澤山アルト云フナラバ、其類ヲ證據立テ、貫ロタイト云フコトヲ申シタ所ガ、ツレハ證據立テルコトハ出來ヌガ必ズアルト云フヤウナ、殆ド痴人が夢ヲ説クヤウナ言葉ヲ以テ反對セラレマシタ、今一ツ諸君ニ御訴ヘヲ申シテ置イテ、而シテ此案ニ御賛成ヲ願ハナケ

レバナラヌコトガアル、ソレハ何デアアルカト云フト、仙臺藩ノ和田織部外三十九名ト云フ者ガアル、又末永繼之丞外一名ト云フ者ガアル、而シテ此人ハドンナ罪ヲ犯シタカト云ヘバ、等シク明治初年度ニ於テ國事犯ヲ犯シタ、然ルニ末永繼之丞外一名ハ明治二年九月十日、即チ藩政施行後同月二十六日ニ處分ニナッタガ故ニ、明治二十七年ノ法律十號ニ依ッテ復祿ノ恩典ニ浴シテ公債證書ヲ貰ッタ、然ルニ和田織部外三十九名ハ何時ノ處分デアアルカト云フト、同年八月、僅カ一箇月前、其人ハ一箇月前ノ處分ニ係ルモノデアリマス、ルガ故ニ、等シク同一ノ罪ヲ犯シ、同一ノ復祿ヲ得マシテモ、復祿ノ恩典ニ浴スルコトガ出来ナカッタデアリマス、此事ハ政府委員モ確ニ認メル事實デアリマス、今一ハ山口縣ノ大樂源太郎外七名ハ、同一ノ矢張國事ニ關スル罪ヲ犯シタ、然ルニ大樂源太郎外七名ハ、其當時山口ヲ脱シテ大分縣邊リニ潛ンデ居テ、同犯秋山常太郎外十三名ト云フ者ハ其處ニ居ッタメニ遂ニ家名繼絶ノ處分ヲ受ケタデアリマス、此人達ノ處分ハ何時デアアルカト云フト明治三年六月以前ニ係ッタ、大樂源太郎ハ其以前デアッタガ國ヲ脱シタガメニ、藩政施行後ノ處分ニ係ッタガ故ニ、其大樂源太郎外七名ノ人ト云フ者ハ復祿ノ恩典ニ浴シテ、其以前ニ逃ゲナイデ處分ヲ受ケタ者ハ、復祿ノ恩典ニ浴スルコトガ出来ナイト云フ實例モゴザイマス、此事實モ政府ニ於テ蓋シ認テ居ルコトダラウト思ヒマス、斯ノ如ク一視同仁ノ聖意ヲシテ、而モ大赦令ト云フモノニ浴シマシタ者ニ對シテ、甲ニハ族籍ノミ復シ、乙ニハ族祿共ニ與フルト云フコトハ、決シテ立法部トシテ斯ノ如キ不公平ヲ看過スベキコトデハナカラウト考ヘル、斯ノ如ク論シ來リマスレバ、政府委員ガ此委員會ニ於テ本件ニ對シテ反對ヲスル所ノ理由ハ少モ價値ノナイモノデゴザイマスカラ、是ヨリ又政府委員ガ反對ノ意見ヲ述ベラレマスニモ拘ラズ、ドウカ満場一致ヲ以テ本案ニハ御贊成アラント希望致シマス

(贊成々々ト呼フ者アリ)

(政府委員大藏省理財局長松尾臣善君演壇ニ登ル)

○政府委員(松尾臣善君) 唯今委員長カラ詳シイ御報告ガゴザイマシタガ、政府ハ遺憾ナガラ本案ニ御同意ヲスルコトガ出来マセヌデアリマス、其理由ヲ一通申上ゲテ置キマス、元來此祿ノ處分ノ極、基礎トナッテ居リマスモノハ、明治三年九月十日藩政仰出サレタキ、其以後ニ祿ヲ有ッテ居ル者ヲ基礎トシテ、サウシテ一旦金祿ト爲リマシテ、續イテ金祿公債證書ヲ交付セラレタノデゴザイマス、故ニ庚午二年九月十日藩政仰出サレタキ、其以後ニ祿ヲ有ッテ居ルコトデゴザイマスレバ、是ハ一般ノ處分ト背馳致シマセヌカラ、或ハ處分ヲシテ宜イコトデゴザイマセウガ、本案ハ此庚午三年九月十日以前ニ溯ッテ復祿ヲシヤウ、斯ウ云フコトデゴザイマスカラシテ、一般ノ祿制ヲ立テマシタト此期限ガ伴ヒマセヌカラシテ、ソレデ若シ之ヲ破リマスレバ、一般ノ祿制ニ據ッテ祿ヲ貰ウテ居ル、即チ金祿公債證書ヲ貰ウタ人ガ、又不公平ヲ言フテ來ルト云フコトハ、當リ前ノコトデアアル、モウ一ツ此案ニハ其沒收セラレタル當時ノ祿高ニ基キ金祿公債證書ヲヤルト云フコトハ示シテアル、所ガ明治二年二月以後各藩デハ祿制ヲ立テマシテ減祿致シテ居ル、之ヲ例ヘテ見マスレバ茲ニ二人ノ家老ガアル、千石宛貰ッテ居タト假定致シマス、一人ハ國事犯ニ罹ッテ沒收セラレタ、一人ハ殘ッテ居ッタ、其殘ッテ

居ッタ人ハ祿制ニ依ッテ千石ノ者ガ百石カ百五十石ニ減ジラレテ、サウシテ金祿公債證書ヲ貰ッテ居ル、所ガ本案ニ據リマシテ當時ノ祿高デアルト云フコトニナルト、元ノ千石ガ祿高ニナル(ソノコトハナイ)ト呼フ者アリ)イニ此ハ文章デハサウナリマス、ソレガ即チ不公平ノ第二デゴザイマス、第三ニハ大赦ヲ受ケタル證明書ヲ以テ願出デロトアル、此大赦ト云フモノハ必ズ證明書ヲ與ヘラレヌケレバ、大赦ノ恩典ニ浴シナイト云フ譯デナイ、證明書ヲ貰フト云フコトハ必要ナ人ハ願出ル、黙ッテ願出デナケレバ貰ヘハシナイ、證明書ヲ貰ッテ居ル人ハ復祿スルガ、證明書ノナイモノニハヤラヌト云フナラバ、同シ大赦ヲ浴シテ居ル方デ即チ不公平ガ起リマセウ、左様ナ不公平ニ公平ヲ重ネルヤウナ法律ニハ、ドウモ同意スルコトガ出来ナイノミナラズ、若シ此證明書ヲ貰ハナイ人達ニモ、或ハ又ヤリタイト云フ斯ウ云フコトニナリマスレバ、ドコマデ溯ッテ來ルカ分ラヌ、ノミナラズ此財政ノ上ニ於キマシテモ非常ナ今日ハ困難シテアル場合ノ所へ、幾方圓ヤッテ宜イカ分ラナイヤウナ、見込モ立タナイヤウナ法律ニハ政府ハ贊成ヲ表スルコトハ出来マセヌ、故ニ是ニ附キマシテ反對ヲ申上ゲテ置キマス

○議長(片岡健吉君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤノ採決ヲ致サウト思ヒマス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシト云フ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、第二讀會ヲ開クコトニナリマシタ、議事日程第九、是ハ委員長ヨリ都合ガアルカラ一時議事ヲ延シテ吳レト云フ申出ガアリマス、延シテ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ延スコトニ致シマス、議事日程第十、第一期鐵道速成ノ建議案、朗讀ヲ省略散會シマス、西谷金藏君

第十 第一期鐵道速成ノ建議案(降旗元太郎外十四名提出)

第一期鐵道速成ノ建議案

政府ハ鐵道敷設法ニ規定セル第一期鐵道敷設工事ヲ速ニ完成スヘシ而シテ之ニ伴フ工費豫算ハ別表ニ準據シ其ノ年度割ヲ更定シ其ノ不足額ニ付テハ直ニ追加豫算ヲ發セラレムコトヲ望ム

右建議ス

鐵道官期一第

線	要	總一年度	三十三年度	三十四年度	三十五年度	三十六年度	三十七年度	三十八年度
奧羽線	既定豫算額	三六、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
北陸線	追加豫算額	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
中央線	既定豫算額	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
關東線	追加豫算額	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
合計		五八、八〇〇、〇〇〇	五、六〇〇、〇〇〇	五、六〇〇、〇〇〇	五、六〇〇、〇〇〇	五、六〇〇、〇〇〇	五、六〇〇、〇〇〇	五、六〇〇、〇〇〇

既定豫算額 五八、八〇〇、〇〇〇 追加豫算額 五、六〇〇、〇〇〇

道工費豫算年度割表

中央線	九州線	山陰及山陽線	山陽線	總計
既定豫算額 1,200,000	既定豫算額 1,200,000	既定豫算額 1,200,000	既定豫算額 1,200,000	既定豫算額 4,800,000
追加豫算額 1,200,000	追加豫算額 1,200,000	追加豫算額 1,200,000	追加豫算額 1,200,000	追加豫算額 4,800,000
合計 2,400,000	合計 2,400,000	合計 2,400,000	合計 2,400,000	合計 9,600,000

(西谷金藏君演壇ニ登ル)

○西谷金藏君(二百十四番) 諸君、エライ時刻モ後レマシタガテ、極簡短ニ申上ゲマス、此案ノ説明ヲ致シマスルニ先チテ、少シク此數字ノ誤植ガゴザイマスルノデ、其點ヲ申上ゲテ置カウト考ヘマス、本案ノ別表、九州線即チ八代鹿兒島線ノ内、年度割總額ノ規定豫算額ガ八、二二六七九三トアルノハ、二ノ誤デゴザイマス、ソレカラ一ツ後トヘ返リマシテ中央線ノ年度割、三三六年度ノ追加豫算額ノ内ニ四、零七九二五九トアルノハ、二二九ノ誤デゴザイマス、ソレカラ總計ニ至リマシテ合計ノ欄、年度割總額ノ内ニ二二六三二トアルノハ六三三ト爲ルノデゴザイマス、左様ニ御修正ヲ願ヒマス、此案ヲ提出致シマシメ所ノ理由ハ、今更事新シク申スマデモゴザイマセヌ、前議會即チ十三議會ニ於テハ殆ド滿場一致ヲ以テ本案ヲ通過シテ、政府ニ向ッテ大ニ求ムル所ガアルノデゴザイマス、然ルニ政府ノ方デハ今期議會モ三分ノ二過ギタル今日ニ至ッテモ、追加豫算等ノ提出ハ見ナイノデゴザイマス、諸君ガ御承知ニナッテ居リマス通、鐵道敷設法ニ據レバ明治二十六年度ヨリ明治三十七七年度マデ、十二箇年間に此總テノ工事ヲ了ラナケレバナラヌ、然ルニ其十二箇年中既ニ七箇年經過シテ、殘ル所僅々五箇年デアル、サウシテ工事ト云フモノガドレ位ノ程度ニ進ンデ居ルカト就イテ調べ見マスレハ、工率ハ僅ニ十分ノ三、即チ三分ノ一ニ充タザル所ノ進行歩合デアル、此ノ如クニレテ經過致シマスレバ、逆モ三十七七年度ニ了リテ見ルコトハ出來ナイ、ノミナラズ明治四十年度ニ至ッテモ未ダ此一期ノ工事モ終ルコトハ期シ難イカト考ヘマス、然ルニ一方カラ考ヘマスレバ、彼ノ本院多數ノ御方ガ提出セラレマシメ案ニ據レバ、此一期線以外ニ於テ敷種ノ線路ヲ急ニ敷設ノ急ヲ認メラレマシメテ、諸君ガ鐵道敷設改正案ヲ大ニ提出セラレタノデアアル、然ルニモ拘ラズ政府ガ極テ緩慢ナル處置ヲ取ッテ居リマスルガ故ニ、之ヲ速ニ即チ此鐵道敷設法ヲ有效ニ決行ナサレムルガためニ本案ヲ提出シテ、大ニ政府ニ要求スル所ガナカラスシテ已ムベキ次第デハナイト考ヘマス、此故ニ本案ヲ提出致シマシメ次第デゴザイマスガ、本案ハ御承知ノ通豫算ノ金ノ上ニモ關係致シマスコトニレテ、政府トモ大ニ協議スベキ事柄モアルト考ヘマスルガ故ニ、更ニ特別委員ヲ九名選出セラレテ相當ナル調査ヲセラレ、又相當ナル

政府ニ向ッテ協議セラレンコトヲ欲スルノデゴザイマス、簡短ニ提出ノ理由ヲ……

(贊成キヤト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 提出者モ委員ニ付託シテ貰ヒタイト云フ動議ガアリマシテ、贊成者モアリマスルガ、九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名致シマシテ御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、議事日程ノ第十一、官幣大社氷川神社ニ對スル國庫支出建議案、議案ノ朗讀ヲ省略致マス、加藤政之助君

第十一

官幣大社氷川神社ニ對スル國庫支出建議案(加藤政之助外七名提出)

官幣大社氷川神社ニ對スル國庫支出建議案

官幣大社氷川神社ハ明治元年遷都ノ初當國ノ鎮守勅祭ノ神社ト定メラレ同年十月二十八日 御親祭 御誓詔アラセラレ歲次勅使參向ノ神社ト定メラレタリ然ルニ現今社頭ノ實況ヲ觀ルニ頗ル神社崇敬ノ實ヲ失シ恐懼ノ至リニ堪サルモノアリ故ニ政府ハ速ニ特別支出ヲ與ヘ以テ勅祭官幣大社相當ノ尊嚴ヲ保有セシメ神社崇敬ノ道ヲ明ニセラレムコトヲ望ム

(加藤政之助君演壇ニ登ル)

○加藤政之助君(二百二十一番) 諸君、本案ハ事帝室ニ關係モアリマスルノデ謹デ説明致シマス、此大宮ノ氷川神社ハ官幣大社デゴザイマシテ、人皇五代孝昭天皇ノ御宇ニ、素盞鳴尊、大己貴尊、稻田姫ノ尊ト三體ヲ祭ラレタモノデアリマス、爾來崇神天皇、サウシテ陽成天皇、景行天皇、朱雀、崇徳天皇、高倉天皇、此各皇帝方ノ御崇敬ニナラレマシメ社デアリマシテ、ソレデ明治元年ニ 今上皇帝ガ御遷都ニナリマスルト云フト、ソレト同時ニ勅書ヲ下サレマシテ、其詔ハ參考書トシテ豫テ諸君ニ御同シテ致シテ置キマシメカラ今別ニ爰テ捧讀ハ仕リマセヌ、ソレデ明治二年ニ行幸ガアリマシテ御親祭ヲ行ハセラレタ、明治元年ニ御親祭ガアツテ、後ニ明治三年ニ御親祭ガアツタ、ソレカラ明治十一年ニ 陛下ガ又御行幸ニナリマシテ御參拜ニナリマシタノデゴザイマス、次イテ明治七年ニハ 皇太后 皇后兩陛下ノ行幸御參拜モアリマシタ譯デゴザイマス、デ斯ノ如キノ次第デアツテ、皇室ノ崇敬淺カラザル御社デアリマスルノニ、昨年此勅使ガ八月一日ニ御參向ニナリマシタトキニ、降雨デアツテ恰モ社殿ガ雨漏ヲレテ、勅使ガ御參拜ヲ遂ゲラレテ其恙ナキコトヲ皇室ニ報告ヲスルコトガ出來ナイ、ソレ故ニ已ムヲ得ズ屋根ニ葺テ張ッテサウシテ式ヲ行ハレタト云フトデアリマス、デソレガためニ皇室デモ御心配アラセラレタト云フ噂モ承ッテ居ッテ、甚ダ恐入ツタコトデアアル、而シテ皇室カラ年々東遊ビテ御奉納ニナリマスガ、ソレモ手揀デアツテ御奉納ニ差支フルト云フ場合モ、又祭器庫ガナクシテ祭器ヲ置クコトガ出來ナイカラ、已ムヲ得ズ社務所ニ置クコト云フヤウナ不都合モアリ、或ハ幕ヲ置ク場ガナイタメニ盜マレタト云フトガアリマス、ソレカラ勅使ガ御出ニ

ナツテモ勅使ノ間ニ充テル坐敷ガ不十分デアツテ、社務所ノ一部ヲ充テルト云フコトデアアル、又庫ガナイ故ニ勅書ノ如キ大切ナ物、天皇陛下ノ御捧ゲニナツタ所ノ御幣ノ如キ、斯様ナモノモ社殿ノ一隅ニ僅ニサウシテ置クト云フ有様デアツテ、誠ニ忍入ツタ次第ト吾々ハ考ヘルノデアリマス、ソレ故ニ是非此修築ヲ加ヘテ奉幣等勅使ガ御下向ニナツテモ、御差支ノナイヤウニ致シタイト云フコトガ、吾々ノ希望デアアル、尙詳シイコトハ爰テ述ベタイデアリマスケレドモ、此事ハ委員會ニ付シテ更ニ特別委員九名ヲ選ンデ、ソレニ調査ヲ遂ゲテ貰フテ、此議ニ上セタイト思ヒマスカラ、其時分ニ詳シイコトハ申スコトニ致シテ、爰デハ是ダケニ略シマスルガ、是非御贊同ヲ請ヒマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 本案ハ提出者カラモ特別委員ヲ選ンデ審査ヲシテ貰ヒタイト云フ演說モゴザイマシテ、贊成者モアリマスルガ、是ハ議長ガ九名ノ特別委員ヲ選ンデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、次ニ日程第十二永小作權ニ關スル請願ハ委員長ヨリ一時是ハ議事日程ヲ延シテ貰ヒタイト云フトガアリマシタガ、御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ延スコトニ致シマス、是ヨリ報告ガアリマス

特別委員ヲ左ノ通指名セリ

刑法中改正法律案

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 山田 武君 | 望月 長夫君 | 淺野 順平君 |
| 平岡 萬次郎君 | 鈴木 總兵衛君 | 安藤 龜太郎君 |
| 持田 直君 | 堀 豐彦君 | 土居平左衛門君 |

酒造稅法中改正法律案

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 東 良三郎君 | 喜多川 孝經君 | 森本 確也君 |
| 首藤 陸三君 | 野尻 岩次郎君 | 大塚 常次郎君 |
| 草刈 武八郎君 | 三輪 傳七君 | 小山 久之助君 |

裁判所設立及管轄區域變更ニ關スル法律案

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 木村 格之輔君 | 本間 直君 | 平岡 萬次郎君 |
| 花井 卓藏君 | 西原 清東君 | 高津 雅雄君 |
| 望月 圭介君 | 山内吉郎兵衛君 | 鮫島 相政君 |

田地價特別修正法律案

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 高川 定次郎君 | 井上彦左衛門君 | 佐々木 正藏君 |
| 宮井 茂九郎君 | 石田 貫之助君 | 西村 淳藏君 |
| 野田 卯太郎君 | 大久保 鐵作君 | 星野助左衛門君 |

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

罰金及追徴ニ係ル上告豫納金廢止法律案

提出者 望月 長夫君 木村 格之輔君 山田 武君

提出者 山内吉郎兵衛君 石黑 涵一郎君 後藤 文一郎君

提出者 磯田 和藏君 東 良三郎君

提出者 望月 長夫君 木村 格之輔君 山田 武君

提出者 山内吉郎兵衛君 石黑 涵一郎君 後藤 文一郎君

提出者 磯田 和藏君 東 良三郎君

輕罪控訴規則廢止法律案

提出者 望月 長夫君 木村 格之輔君 山田 武君

提出者 山内吉郎兵衛君 石黑 涵一郎君 後藤 文一郎君

提出者 磯田 和藏君 東 良三郎君

順德天皇御遺跡保存ニ關スル建議案

提出者 市島 謙吉君 磯部 八五郎君 山田 順一君

提出者 三輪 潤太郎君 佐藤 伊助君 高岡 忠卿君

提出者 大瀧 傳十郎君 丸山 嵯峨一郎君 佐藤 宗彌君

提出者 室 孝次郎君 岡田 龍松君 高橋 九郎君

提出者 齋藤 和平太君

鐵道敷設法中改正法律案

提出者 大村 和吉郎君 永井 嘉六郎君

○特別委員長及理事左ノ通當選セラレタリ

間接國稅犯則者處分法改正法律案

委員長 松本 正友君 理事 望月 長夫君

○議長(片岡健吉君) 明日ハ議案ノ都合ニ依リマシテ休會ヲ致シマス、議事

日程ハ追テ公報ヲ以テ諸君ニ御通報致シマス、先達テモ特別委員ノ諸君ニ御

注意ヲ申シテ置キマシタガ、本會ハ休ニナリマシテモ、委員會ハ開カレマシ

テ、審査セラレンコトヲ希望致シテ置キマス、今日ハ是ニテ散會ヲ致シマ

ス

午後四時四十八分散會